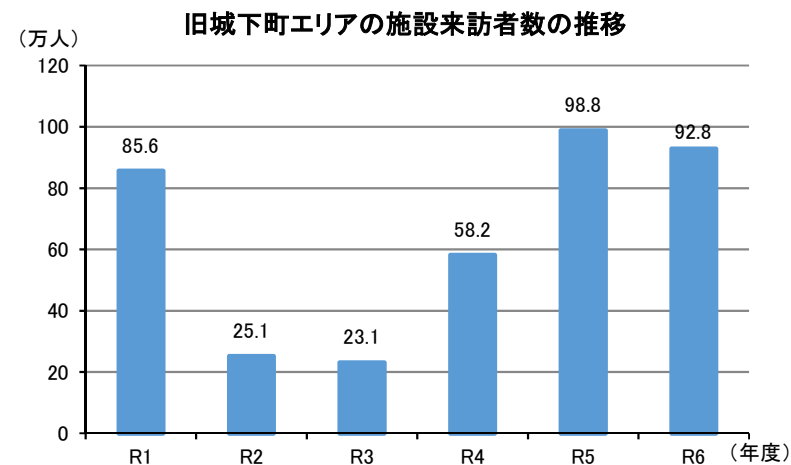


政策 17 歴史・文化による新たな魅力の創出と発信（歴史・文化）

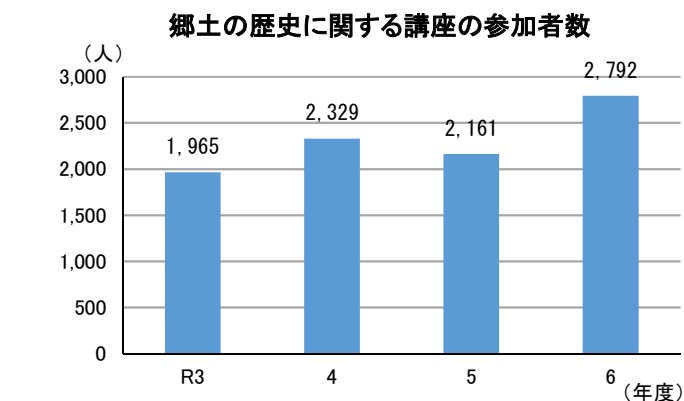
現状と課題

- 岡山市内には、個性的な歴史・文化遺産が各地域に存在しています。また、古代には吉備と呼ばれた地域であり、造山古墳など古代吉備の繁栄を伝える遺跡が多数存在します。国指定史跡数は、政令指定都市の中で京都市に次いで2番目に多く、岡山市の歴史の厚みを物語っています。
- 岡山城、岡山後楽園等の歴史遺産や、美術館、博物館等の文化施設が集積する「旧城下町エリア」には近年300万人を超える来訪があります。効果的な情報発信、施設間の連携強化、歴史・文化遺産をいかした新たな文化芸術の創造、憩いや賑わいなどの機能充実など、一層の魅力向上に取り組むことにより、来訪者の更なる増加や都市格の向上につなげていくことが求められています。
- 各地域が大切にしている歴史・文化遺産の掘り起こしや、市民や来訪者に対する魅力の発信に継続して取り組む必要があります。また、人口減少の進行により、地域の祭りをはじめとする郷土文化の担い手不足が懸念されています。このため、こどもの頃から地域の歴史・伝統・文化への理解と愛着を育むとともに、地域内外にその魅力や価値を発信し、歴史・文化遺産を適切に保存・継承していくことが求められています。



(資料)岡山市担当課調べ

※岡山城、岡山市立オリент美術館、岡山シンフォニーホール、岡山市民会館(～R5)、岡山芸術創造劇場ハレノワ(R5～)



(資料)岡山市担当課調べ

※文化財課、公民館、図書館が開催する郷土の歴史に関する講座等の参加者数

施策の方向性

施策① 歴史・文化遺産をいかしたまちの魅力の創造と発信

- 旧城下町エリアにおける魅力の更なる向上に向けて、憩いや賑わいなどの機能充実を図るとともに、岡山城と岡山後樂園をはじめとする各施設間の連携強化や効果的な情報発信等を継続します。また、岡山城ではデジタル技術を取り入れたコンテンツの制作などにより、岡山の歴史をわかりやすく伝えます。
- デジタル技術を活用した往時の姿の再現などにより、古代吉備の繁栄を伝える造山古墳群の魅力をわかりやすく発信します。
- 「文化財と観光の融合」をテーマに、岡山市の強みである豊かな歴史・文化遺産を掘り起こし、新たな観光資源として磨き上げ、魅力を高めていきます。
- 3年に一度開催される現代美術の国際展「岡山芸術交流」や、「おかやまアーツフェスティバル」をはじめとする文化芸術イベントの開催等を通じて、新たなまちの魅力や文化を創造し、国内外に向けて積極的に発信することにより、多くの人々が訪れ、交流する文化芸術のまちづくりを進めます。

施策② 歴史・文化遺産の活用と継承

- 文化財の指定を進め、歴史・文化遺産の保護と継承を確かなものにするとともに、地域の歴史資源の掘り起こしと発信に取り組みます。また、古代吉備の歴史を伝える造山古墳や万富東大寺瓦窯跡、岡山城跡などの史跡整備を推進します。
- 郷土の歴史・文化財に関する講演会や講座の実施、こどもの頃から地域の歴史・伝統・文化に触れ親しむ機会の提供等を通じて、歴史的価値への認識を深めることにより、市民の郷土への愛着と誇りを育みます。
- 地域の歴史・文化について、地域振興基金も活用しながら、市民、来訪者が親しみ、楽しむことのできる環境づくりを進めるとともに、地域住民による地域固有の歴史・文化の保存・活用等の取組を支援します。

(参考資料)

成果指標

指標名	基準値	目標値
	R6	R12
旧城下町エリアの施設来訪者数	92.8万人	95.8万人
郷土の歴史に関する講座の参加者数	2,792人	2,950人

主な事務事業

施策① 歴史・文化遺産をいかしたまちの魅力の創造と発信	
観光施設の活用事業（岡山城の魅力アップ） [一部再掲]	産業観光局
・岡山城の魅力向上につながる、必要な施策をハード・ソフト両面から実施	
観光資源の魅力アップ事業（岡山城と岡山後楽園のタイアップ）[一部再掲]	産業観光局
・岡山城と岡山後楽園の更なる魅力向上に向けた、烏城灯源郷と幻想庭園の連携をはじめとする各種連携イベントの開催や情報発信	
観光資源の魅力アップ事業（歴史・伝統・文化の活用、継承）[一部再掲]	産業観光局
<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産をはじめとする歴史・文化遺産を活用した情報発信、受入体制の整備等による観光資源としての魅力の向上及び地域への愛着と誇りの醸成 ・古代吉備の繁栄を今に伝える「造山古墳群」の情報発信 ・造山古墳ビジターセンターの活用 	
岡山市立オリエント美術館の運営及び周辺文化施設との共同事業	教育委員会
<ul style="list-style-type: none"> ・特別展等や体験講座の実施 ・周辺文化施設との共同事業による情報発信等 	

岡山芸術交流の開催[一部再掲]	スポーツ文化局
・岡山城周辺の旧城下町エリアを主会場とした国際現代美術展「岡山芸術交流」の開催等	
烏城公園石山地区整備事業、岡山城西の丸活用検討等[再掲]	政策局、都市整備局
・官民連携による烏城公園石山地区の整備・運営事業、岡山城西の丸活用検討等	

施策② 歴史・文化遺産の活用と継承

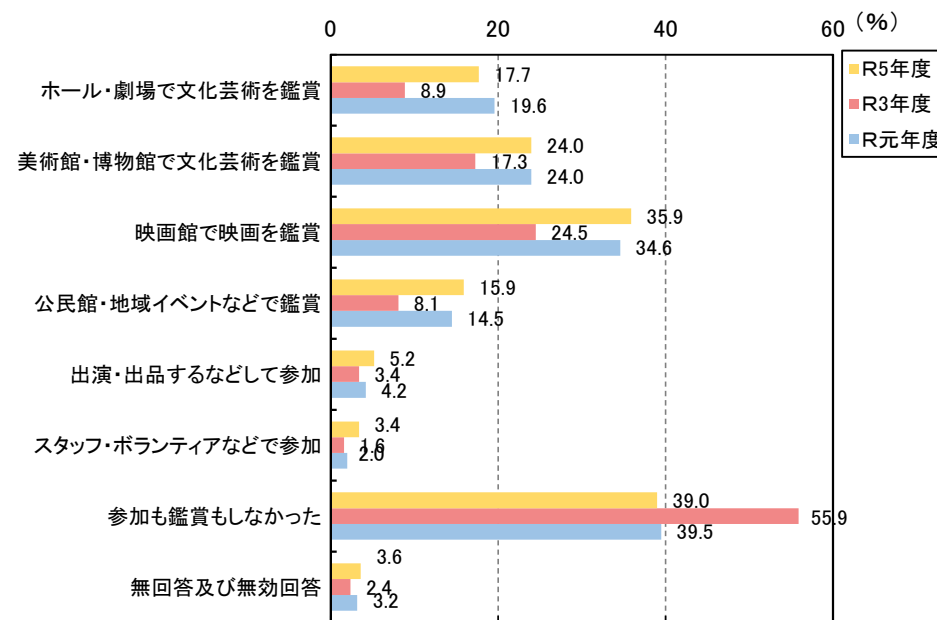
史跡保存整備事業	教育委員会
・歴史・文化遺産である史跡を整備活用することによる、岡山への愛着や誇りの醸成	
文化財指定の推進	教育委員会
・市内各地に所在する指定相当文化財の指定化を通じた、地域の歴史について興味関心の向上や、愛着と誇りの醸成	
史跡公有化の推進	教育委員会
<ul style="list-style-type: none"> ・造山古墳群、大廻小廻山城跡などの史跡の長期的な保護 ・保存を目的とした公有化の推進 	
岡山の歴史・文化に親しむ事業	政策局、産業観光局
・地域の歴史・文化の由来等を現地で紹介する統一的なデザインの案内看板等の活用による地域への愛着と誇りの醸成、地域の魅力発信	
観光資源の魅力アップ事業（歴史・伝統・文化の活用、継承）[一部再掲]	産業観光局
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化遺産の地域住民等による保存・継承に向けた取組の支援 ・地域文化の創造・継承を目的とした郷土芸能の振興と民踊の普及促進 	
岡山シティミュージアムの運営[一部再掲]	スポーツ文化局
・岡山の歴史・文化を記録・保存・展示・発信し、市民の営みやまちの誇りを次世代へ伝えていく常設展や特別展の開催	

政策 18 暮らしに息づく文化芸術の振興（文化芸術）

現状と課題

- 文化芸術は、人の心を豊かにし、まちに活力と賑わいをもたらすとともに、次代を担うこどもの豊かな感性や創造力をかん養するなど、まちづくりにおいて重要な役割を担っており、市民が文化芸術を楽しめる機会の充実を図っていく必要があります。
- 岡山市では、新たな文化芸術拠点である「岡山芸術創造劇場ハレノワ」の整備を契機として、令和4年に文化芸術の振興を図るための基本理念を示す「岡山市文化芸術基本条例」を制定するとともに、施策を総合的・計画的に進めるための「岡山市文化芸術推進計画」を策定し、文化芸術の振興を推進しています。
- 岡山市は、岡山市立オリエント美術館や岡山シンフォニーホール、岡山芸術創造劇場ハレノワなど、文化芸術に触れ、親しむことのできる施設が充実しています。過去1年間にホール、美術館等で文化芸術を鑑賞した市民の割合は、コロナ禍により一時的に下落したものの、令和5年にはコロナ前の水準に回復しています。
- より一層の文化芸術の振興を図るため、市民が多様な文化芸術に触れ、親しみ、楽しむ機会や場を充実するほか、こどもの頃から文化芸術を体験できる機会づくり、新たな担い手の育成等を進めることが求められています。そして、市民の多様で創造的な文化芸術活動と岡山らしい文化の発信を促進し、地域の魅力や賑わいの創出につなげていく必要があります。
- 岡山市の40年以上にわたる文学に関する地域資源をいかした取組が評価され、令和5年に日本で初めて「ユネスコ創造都市ネットワーク・文学分野」に加盟したことを契機として、出版社・書店などによる文学関連の取組や個人の執筆などの創作活動が活性化しています。こうした特徴的な取組が出版業界、文学関係者からの注目を集めていることを踏まえ、岡山市からの情報発信を推進し、地域の活性化に努めていく必要があります。

過去1年間に何らかの文化芸術イベントに参加・鑑賞した人の割合（複数回答）



(資料)岡山市市民意識調査

施策の方向性

施策① 文化芸術施設を核にした文化芸術の振興

- 令和5年に開館した「岡山芸術創造劇場ハレノワ」を地域の文化芸術の継承・創造・発信や多様な文化芸術の担い手の育成、活動の拠点として運営し、文化の薫る魅力と賑わいのあるまちづくりを進めます。
- 岡山シンフォニーホールを拠点に活動する岡山フィルハーモニック管弦楽団による演奏会、岡山シティミュージアムの展示内容のより一層の充実や岡山市立オリエント美術館での魅力的な特別展の開催、各施設でのこども向けプログラムの提供等により、市民や来訪者に多様な文化芸術に触れ、親しみ、楽しむ機会を提供するとともに、新たな文化の担い手を育成します。

施策② 市民の文化芸術活動の推進

- こどもから大人まで、まちなか等の身近な場所で音楽等の様々な文化芸術に触れ親しむことができる機会を提供するとともに、「おかやまアーツフェスティバル」をはじめとする市民の文化芸術活動や創作活動の発表の場の充実を図ります。
- 地域の文化芸術団体等との連携や協働による文化事業の実施を通じて、暮らしの中に文化芸術が息づく心豊かな市民生活を実現します。
- ユネスコ創造都市ネットワークを通じて海外の諸都市と連携することにより、相互に様々な刺激を受けながら、国際会議の開催等の機会を活用して岡山市の国際的なプレゼンスを高めていくとともに、「おかやま文学フェスティバル」をはじめとする、市民・事業者・大学及び作家等と協働した取組により、「文学による心豊かなまちづくり」を推進していきます。

(参考資料)

成果指標

指標名	基準値	目標値
	R6	R12
過去1年間に文化芸術を体験（参加・鑑賞）した人の割合	57.5% (R5)	65% (R11)

主な事務事業

施策① 文化芸術施設を核にした文化芸術の振興	
文化芸術施設の運営	スポーツ文化局
・市民の文化芸術の鑑賞や活動の拠点である岡山芸術創造劇場ハレノワや岡山シンフォニーホール、建部町文化センター、灘崎文化センター等の運営	
岡山フィルハーモニック管弦楽団の活動支援	スポーツ文化局
・県内唯一のプロオーケストラである岡山フィルハーモニック管弦楽団の運営支援を通じた、プロの演奏に触れる機会の増加や都市の魅力向上	
岡山シティミュージアムの運営	スポーツ文化局
・岡山の歴史・文化を記録・保存・展示・発信し、市民の営みやまちの誇りを次世代へ伝えていく常設展や特別展の開催 ・他の文化施設との機能連携による魅力向上	
岡山市立オリエント美術館の運営	教育委員会
・特別展等や体験講座の実施 ・校外学習や出前講座等、美術館を活用した学習プログラムの開発及び実践 ・周辺文化施設との共同事業による情報発信等	

施策② 市民の文化芸術活動の推進

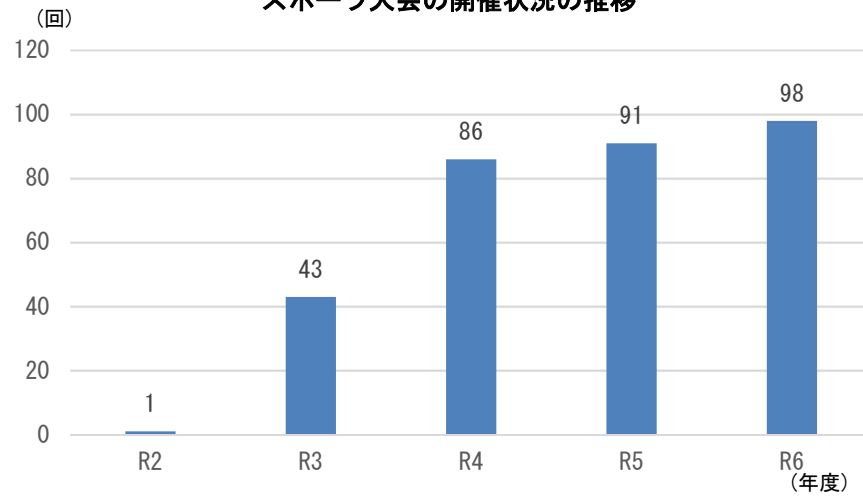
文化芸術に親しむ事業	スポーツ文化局
・国際現代美術展「岡山芸術交流」の開催等 ・「おかやまアーツフェスティバル」の開催 ・アーティストが学校で子どもたちに授業を行うなど、子どもたちに文化体験の機会を提供する事業等の実施	
文学創造都市事業	スポーツ文化局
・文学による心豊かなまちづくりに向けた、創造活動の活発化、国内外への情報発信 ・岡山市出身の坪田譲治を顕彰する「坪田譲治文学賞」と市民の創作活動を奨励する「市民の童話賞」の実施 ・おかやま文学フェスティバルの開催 ・ユネスコ創造都市ネットワークのつながりをいかした国際会議等の開催	

政策 19 地域の活力を育むスポーツの振興（スポーツ）

現状と課題

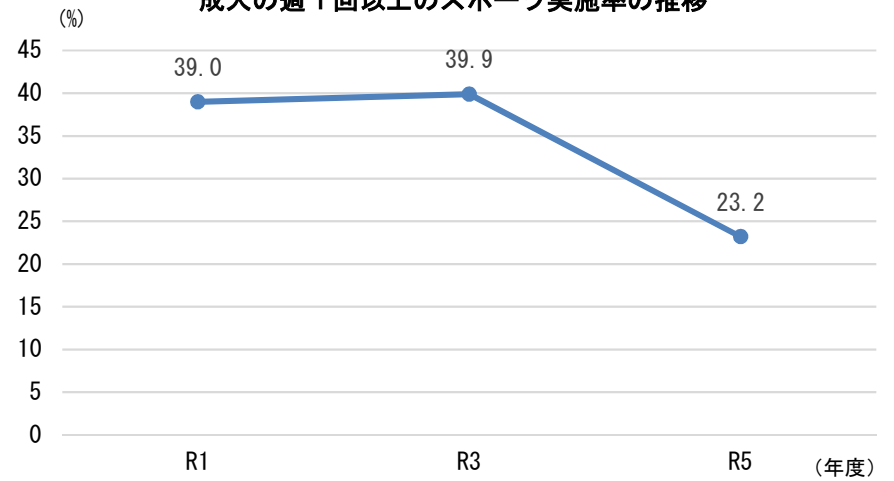
- 健康志向の高まりや、地元トップチーム及び岡山市ゆかりの選手の活躍等によって、市民のスポーツへの関心は年々高まっており、岡山市においては、スポーツがまちの成長や暮らしの質の向上に寄与することが、より一層強く認識されています。今後は、従来からの「する」「みる」「ささえる」スポーツに加え、国が推進する「集まる」「つながる」スポーツへの取組を充実させることで、スポーツによるまちの魅力や活力の向上につなげるとともに、市民が愛着と誇りに加え、一体感を持てるまちづくりをさらに進めていく必要があります。
- 岡山市をホームタウンとするトップチームは、フジアーノ岡山（サッカー）、岡山シーガルズ（バレーボール）、岡山リベッツ（卓球）、トライフーズ岡山（バスケットボール）の4チームあり、チームの活躍や地域との交流により、岡山市におけるトップチームの存在感は高まっています。今後も、トップチームの活動を支えることで、応援機運や地域の一体感を高め、市民の地域への愛着と誇りの醸成につなげていく必要があります。そうした中、トップチームが所属するリーグの求める施設基準への対応等、トップチームの試合環境の整備や充実が求められています。
- スポーツの全国大会・国際大会の開催やトップアスリートとの交流は、市民のスポーツへの関心や競技力の向上に寄与するとともに、市の魅力を対外的に発信できる貴重な機会となっています。また、多くのスポーツ関係者や観客が訪れることにより、高い経済効果も期待できます。このため、おかやまマラソン等の大規模大会の開催、ナショナルチーム等のキャンプ誘致、オリンピック・パラリンピアンとの交流により、スポーツの振興にとどまることなく、国内外への岡山市のPRや地域振興を進めていくことが求められています。
- ライフステージや身体の状態・能力に応じて、市民一人ひとりが気軽にスポーツ活動を楽しむことができる場や機会を提供することにより、スポーツへの興味・関心を高め、スポーツ実施率の更なる向上を図る必要があります。また、今後の少子化等の流れに対応し、中学校部活動の地域展開をはじめ、こどもたちが様々なスポーツに親しみ、体験できる機会を確保する必要があります。
- スポーツ施設に関しては、定期的な点検をはじめ、計画的な修繕や改修を実施する等、安全で持続的なスポーツ環境の提供に努めてきました。引き続き、市民ニーズを踏まえた施設機能の維持・向上や新たな整備により、市民がスポーツに親しむ場の提供に努めていく必要があります。

スポーツ大会の開催状況の推移



(注) 中国地区以上の規模で岡山市内で宿泊を伴い参加者がおおむね100人以上の大会
(資料) 公益社団法人 おかやま観光コンベンション協会

成人の週1回以上のスポーツ実施率の推移



(資料) 岡山市市民意識調査

施策の方向性

施策① スポーツを通じたまちの活性化と一体感の醸成

- 市民デーでのイベント等のトップチームへの支援により、まちの魅力や活力を向上させ、一体感を生み出すとともに、地域への愛着と誇りの醸成をめざします。
- 県内外から多くの参加者が集まる「おかやまマラソン」について、沿道応援やボランティア活動等を通じて地域全体で盛り上げることで、市民のスポーツ振興の気運を高めるとともに、地域コミュニティの活性化につなげます。
- 「魅せる」アリーナを整備することにより、県内外から多くの人を集め、まちに新たな活力と賑わいを創出するとともに、市民の心の豊かさや岡山への愛着と誇りを生み出します。

施策② トップアスリートとの交流等による地域振興と競技力の向上

- 各競技団体やスポーツコミッション等との連携により、ナショナルチーム等のキャンプ誘致やトップアスリートの学校訪問を実施することで、スポーツの振興とともに、国内外への岡山市のPRや地域振興につなげます。
- 大規模なスポーツ大会の開催支援や市を代表して活躍する選手への支援等により、市民のスポーツに対する関心や競技力の向上意欲を高めます。

施策③ ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進

- スポーツ振興を担う様々な関係団体と連携・協働し、市民参加型のスポーツイベントや競技大会等を開催することにより、あらゆる年齢、性別、障害の状態に応じた市民のスポーツ活動を推進します。
- 中学校部活動の段階的な地域展開に取り組むことで、子どもたちが継続してスポーツ活動に親しむことができる仕組みづくりを進めます。

施策④ 多様な市民ニーズに対応したスポーツ環境の整備

- 「岡山市公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画（スポーツ施設）」により、計画的な維持修繕等、適切な管理を行います。
- 施設の利用状況、市民ニーズや社会情勢の変化を踏まえ、施設の更新や新たな施設整備に努めます。

(参考資料)

成果指標

指標名	基準値	目標値
	R6	R12
成人の週1回以上のスポーツ実施率	23.2% (R5)	65% (R11)

主な事務事業

施策① スポーツを通じたまちの活性化と一体感の醸成

トップチーム支援事業	スポーツ文化局
・市民デーでの各種イベントの開催や選手との交流イベント等への支援	
おかやまマラソン	スポーツ文化局
・岡山県や関係団体との共同による「おかやまマラソン」の開催 ・各種関連事業の実施による、岡山の魅力発信	
アリーナ整備事業	スポーツ文化局
・アリーナの整備	

施策② トップアスリートとの交流等による地域振興と競技力の向上

トップアスリート交流促進事業	スポーツ文化局
・ナショナルチーム等のキャンプ誘致 ・岡山ゆかりのオリンピック・パラリンピアン等による座学・実技指導や給食交流 ・JOCオリンピック教室の開催	

競技スポーツ振興事業

スポーツ文化局

- ・岡山市で開催される全国大会に対する負担金の支出
- ・岡山市を代表して活躍する選手への激励金の支給や顕彰等

施策③ ライフステージ等に応じたスポーツ活動の推進

生涯スポーツ振興事業

スポーツ文化局

- ・年齢、性別等にあわせたスポーツ活動の場や機会の提供

体育団体等育成事業

スポーツ文化局

- ・地域のスポーツ統括団体である「一般財団法人岡山市スポーツ協会」の育成・支援

部活動地域展開事業

スポーツ文化局

- ・中学校部活動の地域展開

障害者スポーツ振興事業

保健福祉局

- ・障害者体育センターの運営や障害者体育祭等の開催
- ・全国障害者スポーツ大会への選手派遣等

施策④ 多様な市民ニーズに対応したスポーツ環境の整備

体育施設管理事業

スポーツ文化局

- ・スポーツ施設の計画的な維持・修繕

体育施設整備事業

スポーツ文化局

- ・スポーツ施設整備(アリーナの整備等)

学校体育施設開放事業

スポーツ文化局

- ・地域の身近なスポーツ拠点である学校体育施設の開放と管理

政策 20 災害に強く安全・安心な都市基盤の整備（防災・減災）

現状と課題

- 岡山市の市街地には、干拓等に由来する海拔ゼロメートルの低平地が広がり、水害に対してぜい弱であることに加え、近年の局地的な大雨の増加に伴い、市内各所で浸水被害が発生しています。平成30年7月豪雨においては、近年では最大となる6,000棟を超える家屋の浸水被害が発生する中、ハード・ソフト両面からの総合的な浸水対策により、床上浸水発生リスクを約7割解消してきました。引き続き、更なる被害軽減に向けて、河川、下水道の整備や農業用水路、ため池等の既存施設を有効活用した対策を進めるとともに、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う持続可能な治水対策「流域治水」を促進する必要があります。
- 大規模な被害が想定されている南海トラフ巨大地震が発生した場合、市域の大部分で震度5強以上、岡山平野部では最大で震度6強の揺れが想定されています。地震による建築物倒壊等の被害から市民の生命を保護するため、民間建築物の耐震化を促進していく必要があります。あわせて、災害時の救急活動や緊急物資の輸送ルートを確認するため、橋りょうの耐震化や老朽化している道路の適切な維持管理を計画的に実施していくとともに、沿道の建築物の耐震化を促進する必要があります。
- 市域南部を中心に用水路が縦横に張り巡らされており、用水路への転落事故が多発していたことから、これまで、地域住民と連携し抽出した危険箇所に対して転落防止対策を実施してきました。しかしながら、依然として死亡事故は発生しており、安全・安心な生活基盤を維持するため、引き続き対策を講じていく必要があります。
- 岡山市は、地盤が軟弱な市街地を中心に上下水道管が埋設されており、地域拠点が分散していることや地形条件などからポンプ場等多数の上下水道施設が点在しています。災害発生時にも、市民生活に欠くことのできないライフラインを確保するため、施設・管路の計画的な更新・耐震化等に上下水道一体で取り組んでいく必要があります。
- 近年、下水道管路の破損に起因すると考えられる大規模な道路陥没事故が発生するなど、下水道の公共的役割、社会的影響の大きさが再認識されました。下水道の地下管路は各種インフラ施設の中でもとりわけ過酷な環境下にあるため、戦略的に点検調査を実施し、優先度を定め計画的な改築更新を進めるとともに、管路の二重化などによる冗長性（リダンダンシー）確保に向けた取組を進める必要があります。

施策の方向性

施策① 総合的な浸水対策の推進

- 「岡山市浸水対策の推進に関する条例」に基づき、市民及び事業者と連携し、平成30年7月豪雨等も踏まえた総合的な浸水対策に取り組むとともに、河川の水系ごとに定めた「流域治水プロジェクト」に、国や県と連携して取り組みます。
- 旭川や笹ヶ瀬川、砂川等、国や県が管理する河川の早期改修や、国が実施する旭川ダムの再生事業等を促進します。また、平成30年7月豪雨、平成23年の台風12号等で大規模浸水被害があった排水区を中心に、下水道施設等の整備や倉安川等の河川改修を推進します。
- 河川の浚渫など、維持管理を計画的に行うとともに、台風接近など大雨が予測される場合、農業用水路等の水位の事前調整を行うなど、既存施設を有効活用した浸水対策を推進します。
- 浸水被害のリスクを低減させるため、市有の雨水ポンプ場や河川排水機場については、計画的に保守点検を実施するとともに、順次更新を進めます。
- 洪水・土砂災害、浸水（内水）ハザードマップ及びため池浸水想定マップの普及や出水期の降雨に備えた定期的な市民への土のう配布など、自助、共助を促進するソフト対策に取り組めます。
- 浸水想定区域や土砂災害警戒区域内にある要配慮者利用施設における円滑かつ迅速な避難のため、各施設主体の避難確保計画作成に係る講習会等の作成支援を行います。

施策② 身近な都市施設や建築物等の安全・安心の確保

- 災害時の救急活動や緊急物資運搬のための道路交通の確保や、老朽化している橋りょうについて適切な維持管理を図るため、優先度の高い橋りょうから順次耐震補強や長寿命化対策を実施します。
- 「岡山市耐震改修促進計画」に基づき、民間建築物の所有者に対して、引き続き耐震化の重要性及び耐震診断・改修に伴う負担軽減のための補助制度活用等の周知啓発を図り、耐震診断や耐震改修の促進に努めます。
- 用水路等の危険箇所に対する安全対策を図るため、引き続き転落防止柵等を設置するハード対策を行うとともに、啓発ポスターの掲示やチラシの配布等のソフト対策も実施していきます。
- 道路パトロールや町内会等からの要望、こどもが日常的に集団で移動する経路の合同点検等に基づき、歩行者を守るための施設の設置や区画線の補修といった交通安全施設の整備を行うとともにバリアフリー化を進めるなど、道路交通の安全・安心の向上に努めます。

施策③ ライフラインの強靱化

- 災害に強く持続可能な上下水道システムの構築に向け、対策が必要となるシステムの急所施設や避難所等の重要施設に接続する上下水道管路等について、一体で耐震化を推進するとともに、更新時期を迎える管路や施設の計画的な更新及び耐震化等の工事を進めます。
- 下水道管路の破損による道路陥没や機能停止を防止するため、戦略的に点検・調査を実施し、必要に応じた修繕工事や計画的な改築更新を進めます。また、維持管理の容易性や大規模事故時など万一に備えた冗長性の確保に向けた取組を進めます。

(参考資料)

成果指標

指標名	基準値	目標値
	R6	R12
大規模浸水被害を受けた地区における浸水対策整備面積	279ha	525ha
住宅の耐震化率	88.9%	95%
避難路沿道建築物の耐震性不足解消率	30.7%	50%
水道の基幹管路（口径400mm以上）の耐震適合率	55.2%	56.7%
下水道の重要な幹線等に対する耐震化・管きよ改築延長	0.5 km	6 km

主な事務事業

施策① 総合的な浸水対策の推進

浸水対策事業	下水道河川局、産業観光局、危機管理室
<ul style="list-style-type: none"> 旭川や笹ヶ瀬川、砂川等、国や県が管理する河川の改修促進等 雨水ポンプ場及び雨水幹線の計画的な整備 倉安川などの河川改修等の推進 農業用水路等の事前水位調整、可搬式ポンプの配置などによる浸水対策の推進 老朽化した農業用水路、農業用排水機場、ため池等の整備及び管理の強化 公共施設及び民間開発等に係る雨水流出抑制施設の設置の推進 洪水、土砂災害、内水ハザードマップ及びため池浸水想定マップの普及啓発や土のうの配布等 タイムラインによる防災関係機関の横断的連携の強化 	

施策② 身近な都市施設や建築物等の安全・安心の確保

橋りょう耐震補強事業	都市整備局
・緊急輸送道路上の橋りょうの耐震補強	
橋りょう長寿命化対策事業	都市整備局
・橋りょうの長寿命化に向けた計画的な点検及び補修	
住宅・建築物耐震改修等補助事業	都市整備局
・住宅及びその他の建築物の耐震化のための経費の補助	
宅地耐震化推進事業	都市整備局
・大規模盛土造成地の調査	
用水路等安全対策事業	都市整備局、産業観光局
・用水路等の危険箇所に対する安全対策	
道路改修事業	都市整備局
・道路の改修や維持管理及び交通安全施設の整備	

施策③ ライフラインの強靱化

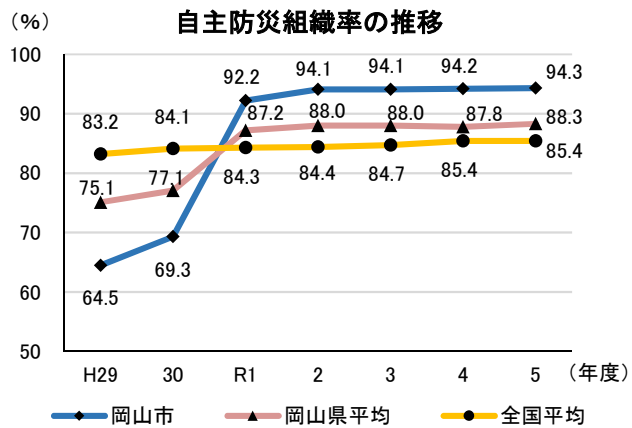
水道管路耐震化等更新事業	水道局
<ul style="list-style-type: none"> 老朽管の更新、耐震化 重要施設へ至る管路の耐震化 	
水道施設耐震化等更新事業	水道局
・老朽化した水道施設の更新、耐震化	
下水道管きよの長寿命化、耐震化	下水道河川局
・重要な幹線等の管きよ及びマンホールの点検・調査、耐震化、改築更新	

下水道施設（処理場、ポンプ場）の長寿命化、耐震化	下水道河川局
・老朽化した処理場、ポンプ場の点検・調査及び改築更新 ・旧耐震基準施設の耐震化や耐水化	

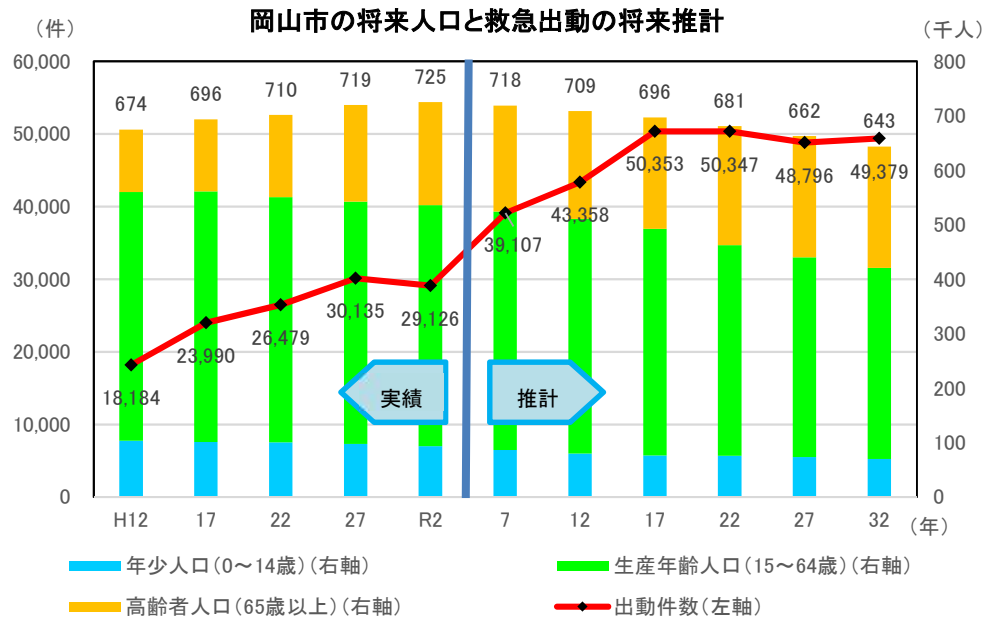
政策 21 地域防災力の強化と消防救急体制の充実（地域防災）

現状と課題

- 大規模広域災害が発生した場合には、ライフラインの途絶や行政機能の低下等により、行政等が支援を行う「公助」が行き届かないことが考えられます。災害による被害を最小限にするためには、自分自身で身を守り安全を確保する「自助」や、高齢者、障害者、乳幼児、妊婦、外国人等の要配慮者の支援をはじめ、地域で助け合う「共助」が特に重要となっており、市民一人ひとりの防災意識の更なる向上や地域での共助の基盤強化を進めていく必要があります。
- 平成30年7月豪雨等の甚大な浸水被害を契機に、自主防災組織の結成促進に取り組み、組織率は95.5%と大幅に上昇しました。引き続き組織率100%をめざし、個々の実情を考慮しながら働きかけを行い、結成促進を図っていく必要があります。また、自主防災組織の活性化にも重点を置き、住民同士の共助により、災害時に適切な避難行動がとれるよう、地域の防災力強化を図っていく必要があります。
- 発生が危惧される大規模地震や集中豪雨などの突発的な自然災害、多様化する各種災害に迅速・的確に対応するため、施設・車両・装備・人員など、ハード・ソフトの両面から消防サービスの質を高め、消防職団員が連携した総合的な災害対応力を向上させる必要があります。
- 近年、火災件数に大きな増加はみられませんが、依然として逃げ遅れによる死者は発生しており、防火対象物の消防法令違反は是正するも、新たな違反が後を絶たない状況です。また、電気機器等の不適切な使用や維持管理の不良による製品火災など、出火原因が多様化していることから、火災予防広報、防火対象物の違反是正、火災調査（鑑識）体制を充実強化する必要があります。
- 岡山市の人口は減少していくことが見込まれる一方で、高齢化の進展に伴い、救急出動件数は増加し続けることが見込まれており、増加する救急需要に対応する必要があります。また、様々な症状を呈する傷病者への迅速かつ的確な対応が求められています。



(資料) 岡山市担当課調べ、総務省「消防白書」



(資料) 実績値：岡山市担当課調べ、総務省「国勢調査」(平成27年及び令和2年は不詳補完値による。)

推計値：「令和6年度救急業務のあり方検討会報告書(総務省消防庁)」による岡山市試算結果(推計値)

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」

施策の方向性

施策① 地域防災力の強化

- 市民一人ひとりが防災に関する十分な知識を持ち、自主防災の重要性を認識できるよう、防災学習会、防災訓練等を通じて、防災に対する意識の高揚を図ります。
- 自主防災組織の結成を促進するとともに、地域で主体的に防災活動を行う地域防災リーダーの育成や先進事例の発表、意見交換、さらに避難行動要支援者個別避難計画の策定支援等を通じて、地域での防災活動を活性化します。
- 洪水・土砂災害、地震及びそれに伴う津波など、災害種別に応じた避難所をできるだけ多く確保します。その上で、災害時に避難所となる小・中学校への分散備蓄を推進し、避難所生活において必要な備蓄物資を備え、市民の安全・安心の確保につなげるとともに、家庭内備蓄の周知啓発を図ります。

施策② 消防救急体制の充実強化

- 大規模化・多様化する各種災害へ迅速・的確に対応するため、消防基盤の充実や、教育訓練施設の拡充、指揮・通信指令体制の機能強化と消防航空隊の運航体制の確立を図ります。
- 地域防災の中核である消防団を強化するため、消防団員確保を推進し、拠点となる消防団機庫と装備の充実を図ります。また、消防職団員が連携した実戦的な訓練により、総合的な消防力の強化を推進します。
- 市民の生命や財産を火災から守るため、防火意識や安全な避難行動等の啓発と、消防法令違反の効果的な是正を推進します。また、新たな火災リスクに対応する火災調査体制を強化します。
- 増加する救急需要に応じ、救急体制の強化と救急車の適正利用を推進します。また、市民への予防救急や応急手当の普及啓発、救急隊員教育の充実、医療機関との連携など「救命の連鎖」を強化する環境づくりに取り組みます。

(参考資料)

成果指標

指標名	基準値	目標値
	R6	R12
自主防災組織率	95.5%	100%
応急手当講習受講者数	20,359人 (R2~R6)	34,500人 (R8~R12)

主な事務事業

施策① 地域防災力の強化	
自主防災組織育成事業	危機管理室
<ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織の結成促進、助成金の給付 地域の防災活動の担い手や防災意識の普及啓発に携わる公民館職員の人材育成 避難行動要支援者個別避難計画作成促進に向けた取組 	
出前講座の実施	危機管理室
<ul style="list-style-type: none"> 市民の防災意識の高揚を図ることを目的とした、地域での防災出前講座の実施 	
備蓄の推進	危機管理室
<ul style="list-style-type: none"> 家庭内備蓄の周知啓発 	
総合防災訓練等の実施	危機管理室
<ul style="list-style-type: none"> 住民参加による防災訓練の実施 	

施策② 消防救急体制の充実強化

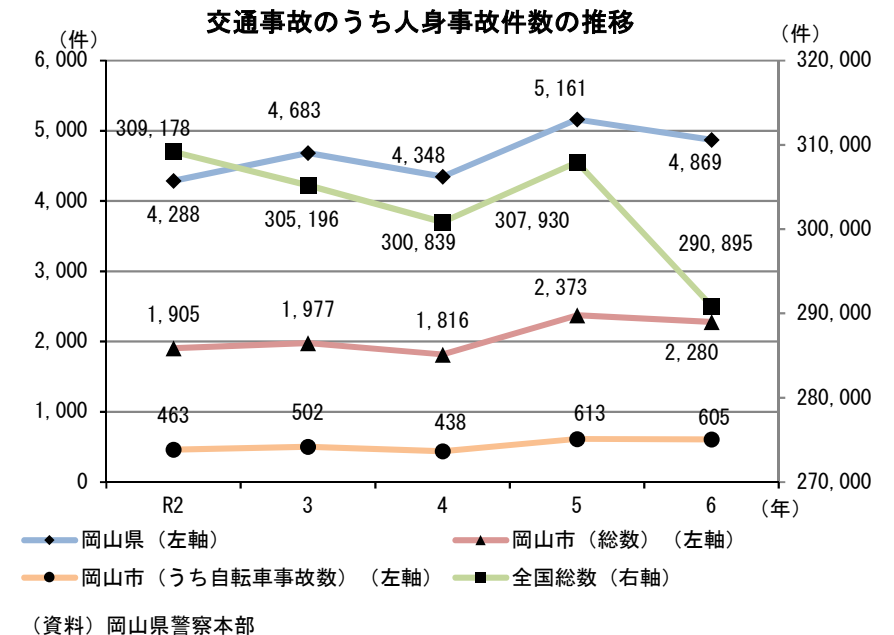
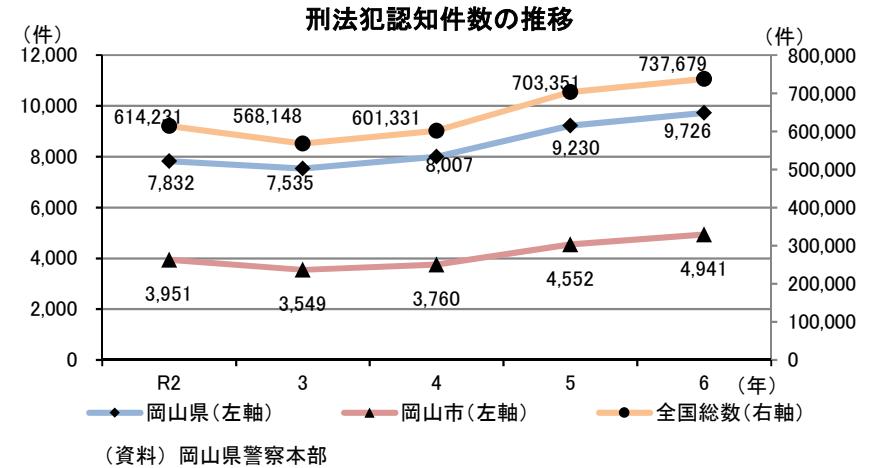
消防署所の機能強化と教育訓練施設等の整備	消防局
<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害時等における消防署所の拠点機能を強化するための整備(建替・長寿命化等) 消防職団員の災害対応力強化と市民の防火防災教育のための教育訓練施設等の拡充と整備 	
消防団機庫と装備の整備	消防局
<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害時等に地域防災の拠点となる消防団機庫の機能強化と整備 災害現場等における消防団活動に必要な装備品の整備 	
火災予防対策の推進	消防局
<ul style="list-style-type: none"> 市民、事業者の防火意識の啓発とXR技術を活用した火災から身を守る方法の普及 各種申請、届出等の利便性向上と建築物等の法令違反对策を目的とした業務のDX推進 新たな火災リスクに即応できる火災調査鑑識体制の整備 	
警防体制の強化	消防局
<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した消防隊の安全管理体制の構築 消防ヘリコプターの安定的で安全な運航体制の確立 常備・非常備消防が保有する車両の更新整備、適切な出動体制の構築 実戦的な訓練による消防団との連携強化 	
救急需要対策と救急業務の高度化	消防局
<ul style="list-style-type: none"> 救急需要増加に対する救急隊の適正な配置と救急車の適時・適切な利用の推進 心停止の予防から医療機関までの「救命の連鎖」を強化するための環境づくり 救急業務のDX推進による医療機関との連携強化 	

消防指令システムと消防救急無線設備の更新と機能強化	消防局
<ul style="list-style-type: none">・消防指令システム及び消防救急無線設備の計画的な更新と24時間・365日安定稼働の維持・大規模災害に備えた効果的な部隊運用システムと情報管理機能の充実強化・システム機能強化に対応した指令管制業務の教育訓練体制の確立と指令管制員の育成	

政策 22 安全・安心な市民生活の確保（市民生活）

現状と課題

- 岡山市における刑法犯認知件数は、近年、コロナ禍が終わり人の動きが活発になるにつれて増加傾向にあり、手口が巧妙化した特殊詐欺等が多発するなど、市民の安全・安心が脅かされています。犯罪被害を減らすため、警察等と連携した啓発活動等はもとより、高齢者を対象とした特殊詐欺被害防止対策や防犯カメラ設置支援事業等による地域防犯団体への支援の充実等により、より一層地域防犯力を強化していく必要があります。
- 岡山市の令和6年における人口10万人当たりの交通事故死者数は、政令指定都市の中でワースト1位となっており、また、交通事故（人身事故）の約4分の1を自転車事故が占めています。これらの状況を改善するため、市民の交通ルール遵守・マナー向上の周知徹底を図っていく必要があります。
- 契約トラブルをはじめとした消費生活相談は、依然として高齢者の割合が高く全体の約4割を占めています。また、インターネットによる取引等に係る消費者トラブルが年齢を問わず多発しており、それに伴い相談も複雑化・多様化しています。こうした消費者トラブルを未然に防止するとともに、自らの消費活動が世の中に影響を与えることを自覚し、自らが主体的かつ合理的な意思決定ができる「自立した消費者」の育成を図るため、学校での消費者教育の実施をはじめ、各種の関係団体等と連携した取組を一層推進することが求められています。



施策の方向性

施策① 地域防犯力の強化と交通安全対策の推進

- 岡山市の防犯・交通安全の計画となる岡山県警察との協定である第4次「安全で安心なまちづくり」岡山市行動プラン（令和8年～令和12年）に基づいて、地域防犯、交通安全対策等の施策を推進します。
- 地域の防犯力強化に向けて、防犯カメラ設置支援や夜間の犯罪・交通事故を防止するための防犯灯の設置補助等により、地域防犯団体等への支援を推進します。また、各種関係団体とも連携し、高齢者の特殊詐欺被害を未然に防止するための取組を進めます。
- 交通死亡事故を1件でも減らすため、交通ルール遵守・マナー向上に向けた各種啓発活動を進めます。特に、市内の人身事故件数の約4分の1を占める自転車事故対策として、令和8年4月から施行の自転車の交通反則通告制度（いわゆる「青切符」）に対する周知や、自転車に乗り始める時期にある小学生をはじめとした自転車利用者に対し、実技講習を行うほか、ヘルメットの着用など自転車の安全な乗り方についての啓発や自転車損害賠償保険の加入促進に取り組みます。また、高齢者の交通事故防止のための啓発を行います。

施策② 消費生活の安全・安心の確保

- 自立した消費者を育成するため、学校や関係団体等との連携のもと、幼児期から高齢期までの生涯にわたり、様々な機会を捉えて消費者教育が受けられる環境づくりを進めるとともに、人や社会、環境に配慮したものやサービスを選んで消費する「エシカル消費」の普及に向けた啓発を進めます。
- 高齢者や障害者等の消費者トラブルの防止や早期解決を図るため、地域の各種団体との連携を強化し、地域全体で見守る取組を進めます。

(参考資料)

成果指標

指標名	基準値	目標値
	R6	R12
刑法犯認知件数	4,941件	4,300件
人身事故件数	2,280件	1,900件
消費生活サポーター登録者数	112人	160人

主な事務事業

施策① 地域防犯力の強化と交通安全対策の推進	
防犯カメラ設置支援事業	市民協働局
・町内会等が設置する防犯カメラの新設・更新費用の一部補助	
地域防犯ボランティア支援事業	市民協働局
・地域防犯ボランティア活動の活性化及び地域の防犯意識向上を目的とした、地域防犯ボランティアへの講習、防犯講座の実施	
防犯灯設置・設置支援事業	市民協働局
・市が行う通学路の防犯灯設置事業 ・町内会が設置する防犯灯の新設・取替費用の一部補助	
特殊詐欺等被害対策電話機設置支援事業	市民協働局
・市内の65歳以上の高齢者を対象とした、特殊詐欺等被害防止機能付き電話機の購入費用の一部補助	
交通安全対策事業	市民協働局
・春と秋の交通安全運動期間を中心とした街頭啓発活動や保育所・認定こども園・小中学校等における交通安全教室等の実施	

自転車安全運転免許証交付事業	市民協働局
・交通安全教室における自転車実技講習の実施及び自転車に本格的に乗り始める小学4年生から6年生への自転車安全運転免許証の交付	
自転車等啓発事業	市民協働局
・自転車等の安全な利用及び自転車損害賠償保険への加入を促進するための啓発等の実施	

施策② 消費生活の安全・安心の確保

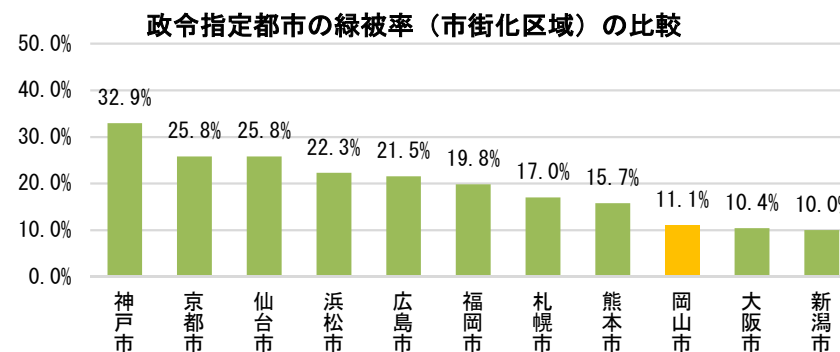
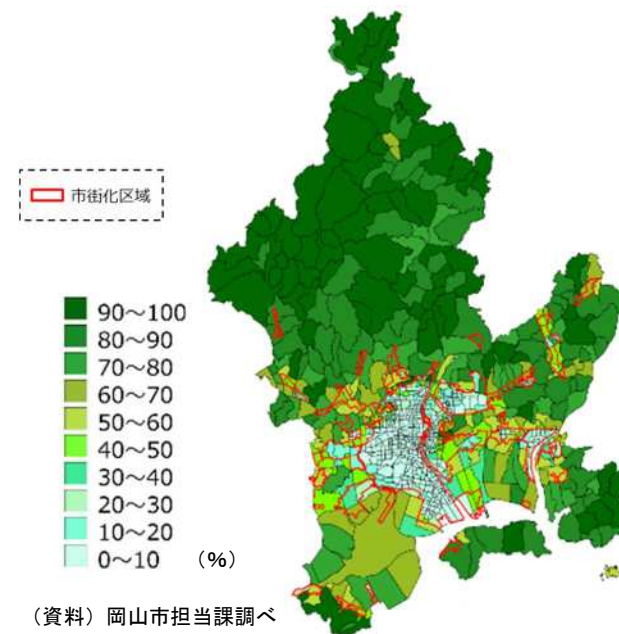
消費者教育推進事業	市民協働局
・エシカル消費の普及などSDGsの理念に沿った消費者教育の推進 ・学校や関係団体等との連携強化による消費者教育や消費生活サポーター等の担い手育成	
消費生活相談事業	市民協働局
・消費生活センターの相談業務の充実に向けた、相談員の能力向上を目的とした事例検討会等の実施	

政策 23 みどり豊かで風格あるまちづくり（みどり・景観）

現状と課題

- 岡山市は、市街地を取り巻く山や丘陵、河川、田園など、豊かな緑と水の自然に恵まれた都市です。しかしながら、近年、市街化の進行により身近な緑が失われつつある中で、暑熱対策やウェルビーイングなどの多様な観点から、緑の必要性が見直されており、生活に潤いをもたらす水辺空間とあわせ、季節の移ろいや憩いを感じられる良好な都市景観を形成していくことが求められています。
- 街路樹や公園樹木は、落ち葉による沿道への影響等を考慮した強剪定により、樹形の悪化や木陰の減少が生じており、市街化区域の緑被率は政令指定都市の中で低位となっています。また、老木化に伴う倒木等の増加が懸念されています。人々に安らぎをもたらす、都市の風格やイメージの向上を図るため、街路樹の再生をはじめとした緑のボリュームアップを進めていく必要があります。あわせて、公園施設の老朽化が進行していることから、施設の安全と機能保全及び長寿命化を図っていくことが求められています。
- 広大な市域の中で、変化に富んだ豊かな自然環境と、歴史・伝統・文化が長い時間をかけて創り出してきた風景とが一体となり、多様性と個性を併せ持つ魅力的な景観が形成されています。こうした岡山固有の美しい景観は、市民の誇りや愛着につながる共有財産であり、将来にわたり保全・形成していく必要があります。また、まちなかでは、風格と賑わいを備えた魅力ある景観の形成が求められています。

岡山市の緑被率(衛星画像分析) 町丁目別 (令和7年度)



※令和7年度時点で公開されている政令指定都市の市街化区域の緑被率データより岡山市作成。
※緑被の対象は農地・樹林地・草地等の緑。内訳不明な都市(神戸市・福岡市)は水面、クラウド等を含めた値。

(資料) 岡山市担当課調べ

施策の方向性

施策① 緑と水の豊かな空間づくり

- 街路樹や公園樹木のボリュームアップや、点検・診断結果を踏まえた適切な更新及び質の向上に資する植替え等を進め、憩いや潤いをもたらす魅力ある都市空間の形成を図ります。
- 岡山城、岡山後楽園周辺における水辺の回遊性・親水性の向上、憩い・賑わいの空間の創出により、歴史・文化や河川の景観を身近に楽しめる環境づくりを進めます。
- 公園施設については、効率的な維持補修や更新投資を行っていくための「公園施設長寿命化計画」に基づき、安全性や機能の確保とライフサイクルコスト縮減に取り組みます。

施策② 美しく風格あるまちなみづくり

- 景観計画に基づき、市民、事業者、行政の役割分担のもと、協働して美しく風格ある岡山固有の景観を未来へ引き継いでいきます。特に、まちなかにおいては、桃太郎大通りやハレまち通り等の公共空間の緑化と相まって、景観形成重点地区及び屋外広告物モデル地区の運用により、建築物や広告物の適正化や敷地内の緑化等を規制誘導し、調和のとれた良好なまちなみを形成していきます。

(参考資料)

成果指標

指標名	基準値	目標値
	R6	R12
緑視率		
上段：中心市街地	22.9%	25%
中段：西大寺駅周辺地区	16.2%	21.5%
下段：北長瀬駅周辺地区	15%	21%
市街化区域の緑被率	11.1% (R7)	9.4%

主な事務事業

施策① 緑と水の豊かな空間づくり	
緑のボリュームアップ事業[再掲]	都市整備局
<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹再生プログラムの実施による緑の量と質の向上 ・樹木の点検・診断の実施と適切な更新 	
市民・事業者と取り組む緑化推進事業	都市整備局
<ul style="list-style-type: none"> ・民有地緑化を推進する各種制度の活用 	
公園施設長寿命化対策支援事業	都市整備局
<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園施設の健全度調査の実施 ・都市公園を対象とする公園施設長寿命化対策の実施 	
西川魅力にぎわい創出事業[再掲]	都市整備局
<ul style="list-style-type: none"> ・西川パフォーマー等との協働による西川緑道公園の特色をいかした定期的なイベントの開催 ・西川緑道公園筋(平和橋～桶屋橋)における歩行者天国による賑わいづくり 	

下石井公園の魅力向上事業[再掲]	都市整備局
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民やまちづくり団体等と連携した公園の活用 ・まちなかの賑わい創出や回遊性の向上を官民連携により面的に広げる取組 	
旭川かわまちづくり事業[一部再掲]	都市整備局
<ul style="list-style-type: none"> ・国との連携による旭川の周遊性・親水性向上、周辺における賑わいの創出に向けた鳥城公園石山地区整備等 ・市民、事業者、NPO、大学等との協働による、まちなかの公園の特性をいかした利活用やルールづくり 	

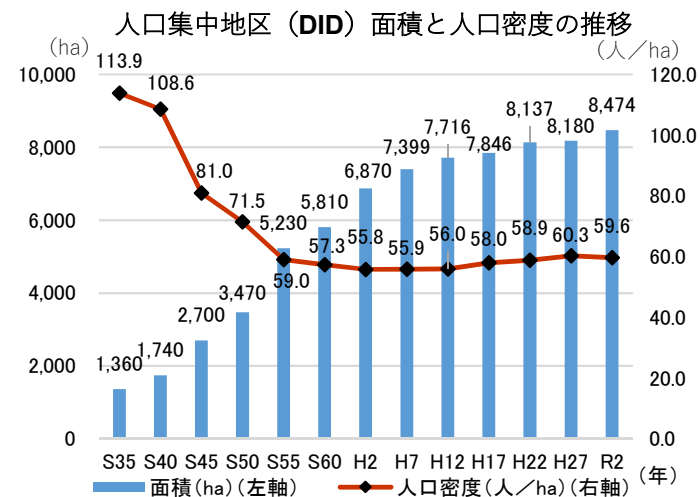
施策② 美しく風格あるまちなみづくり

都市景観形成事業	都市整備局
<ul style="list-style-type: none"> ・景観計画に基づく都市の良好な景観や風致の形成 ・屋外広告物の適正化 	

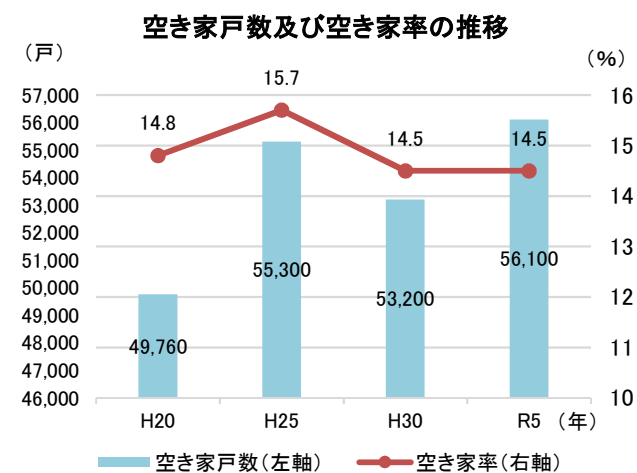
政策 24 快適で暮らしやすい都市づくり（都市・住環境）

現状と課題

- 岡山市では、コンパクトでネットワーク化された都市づくりへ方向転換し、人口減少社会に適応した持続可能な都市づくりを進めています。これまでの市街地の縁辺部や幹線道路の沿道における市街化の進行により、低密度な市街地が広がっており、生活サービス機能の低下、空き家や駐車場等の低未利用地の増加等、市民生活の質や都市の活力の低下に対応していく必要があります。
- 市街化区域では、多くの空き家・低未利用地が生じていることから、既成市街地の土地の有効利用や環境改善等が課題となっています。また、市街化調整区域では、自然と調和した住みやすさを将来にわたり確保していくためにも、市街地の拡大を抑制しつつ、地域コミュニティや産業の維持・活性化を推進していく必要があります。
- 市民の生活に必要な生活サービスは、居住人口の分布などにあわせて立地しています。そのため、今後の人口減少によって、これらの維持が困難になる可能性があります。人口減少や高齢化が進行する中においても、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、各地域の拠点や公共交通沿線などに居住を緩やかに集積していくことによって、医療、福祉、商業等の都市機能を維持する必要があります。
- 少子高齢化の進行等に伴い、高齢者や子育て世帯等の住環境へのニーズが変化している状況を踏まえ、多様なニーズに対応していく必要があります。また、近年、空き家が増加しており、その中でも適切な管理が行われていない空き家は、防災・防犯、衛生面等で地域の生活環境に悪影響を及ぼすことが懸念されていることから、効果的・計画的な対策を進めていく必要があります。



（資料）総務省「国勢調査」



（資料）総務省「住宅・土地統計調査」

施策の方向性

施策① 活力と暮らしを支える持続可能な土地利用の推進

- 市街化区域では、機能的な都市活動や良好な市街地環境の確保など地域の課題に応じ、適切な土地利用制度の見直しを検討します。また、市街化調整区域については、「市街化を抑制する」という市街化調整区域の理念のもと、優良な農地や自然環境等の保全を原則として、人と自然が共生した秩序ある土地利用を図るとともに、適切な土地利用の規制誘導により集落地域のコミュニティの維持・活性化や産業用地の確保に資する取組を進めます。
- 「岡山市立地適正化計画」において居住や都市機能を誘導する区域を定め、一定の人口密度を維持するとともに、必要な都市機能を確保し、それらの区域を公共交通ネットワークで結ぶことにより、人口減少・超高齢社会においても、若年者から高齢者まで歩いて健康に暮らすことができるなど、生活の質が高く活力あふれる持続可能な都市づくりを進めます。特に、各地域の拠点や主要な駅周辺などの公共交通の利便性が高い地域においては、都市の活力を将来に向けて持続するため、それぞれの特性に応じた都市機能の配置について検討します。

施策② 快適で暮らしやすい住環境づくり

- 「岡山市住生活基本計画」に基づき、人口減少、少子高齢化に伴う居住ニーズの変化を把握しつつ、既存住宅ストックや空き家の活用、耐震化・バリアフリー化等に配慮した住宅整備を計画的に推進します。
- 「第2期岡山市空家等対策計画」に基づき、特定空家等や管理不全空家等の対策を講じることで、市民の生活環境の保全を図るとともに、空き家の活用促進や新たな空き家の発生を抑制することで、安全・安心な住みやすいまちづくりを推進します。

- 市営斎場の適正な管理・運営に努めるほか、市営墓地については、墓じまいの増加や無縁化等を踏まえて適正な維持管理に努めます。

(参考資料)

成果指標

指標名	基準値	目標値
	R6	R12
居住誘導区域内人口密度	59.3 人/ha (R2)	60 人/ha
空き家率	14.5% (R5)	14% (R10)

主な事務事業

施策① 活力と暮らしを支える持続可能な土地利用の推進

土地利用の適正誘導

都市整備局、産業観光局

- ・都市計画法、農業振興地域の整備に関する法律等の適正な運用及び都市計画マスタープランに基づく計画的な土地利用の推進
- ・立地適正化計画に基づく都市機能や居住の誘導区域への誘導
- ・公共交通施策等の関連施策と連携した、コンパクトでネットワーク化された都市づくりの推進

施策② 快適で暮らしやすい住環境づくり

岡山市住生活基本計画に基づく住宅や住環境の整備促進

都市整備局

- ・「岡山市住生活基本計画」の改定(令和8年度)
- ・市営住宅等の効率的・効果的な機能更新や再生を実現するための「岡山市営住宅等長寿命化計画」の改定(令和9年度)
- ・岡山市営住宅等長寿命化計画に基づく高島市営住宅の再生

空き家対策	都市整備局
・助成制度の活用などによる空家等の適正管理・利活用の促進及び発生抑制	
市営斎場・市営墓地維持管理事業	市民協働局
・市営斎場の安全・安心な運営 ・市営墓地の適正な維持管理	

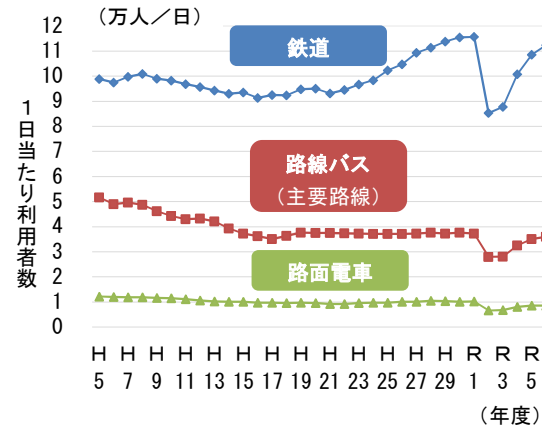
政策 25 人とまちを元気にする交通ネットワークの構築（交通）

現状と課題

- 岡山市は、近畿と九州を結ぶ西日本の東西軸と山陰と四国をつなぐ南北軸のクロスポイントに位置しており、道路、鉄道、空路等の広域交通の要衝となっています。また、市内では、都心を中心に市街地が放射状に広がる都市構造にあわせて、道路、鉄道、バス等の交通体系も、都心から各地域の拠点に向けて放射状に発達しています。
- 高齢化の進展で公共交通の必要性が高まる中、人口減少や自動車へ過度に依存した暮らしにより、公共交通利用者が減少し、便数の減少や路線廃止などのサービス低下を招き、さらに利用が減少するという公共交通の「負のスパイラル」に陥っています。そのため、過度に自動車に依存する都市構造から脱却し、バス、路面電車、鉄道等の公共交通を中心とした持続可能で利便性の高い公共交通ネットワークを構築していく必要があります。
- 路線バスについては、重複区間での非効率な運行や過度な競争に加え、運転手不足や燃料高騰に伴い、バス事業者の経営が悪化していることから、バス事業者と連携した「岡山モデル」のバス路線の再編等に取り組んでいます。また、路面電車は定時制、速達性、経路のわかりやすさに優れ、輸送力が高いことから、都心部における有効な交通手段としてネットワークを拡充する必要があります。
- 今後、更なる人口減少に伴う公共交通利用者の減少により、公共交通が衰退する地域の拡大が予想されます。また、高齢化の一層の進行に伴い、移動手段を持たない高齢者をはじめとする交通弱者への対応が必要になります。このため、買い物や通院等、日常生活に必要な移動手段の確保が求められています。
- 温暖で晴れの日が多く地形が平坦な岡山市では、自転車利用が進んでい

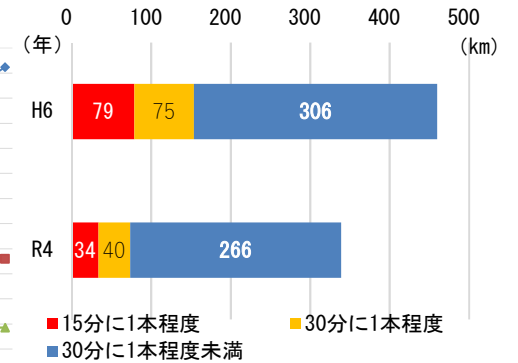
- ます。通勤・通学時の主たる交通手段は自転車の割合が比較的高いものの、市民アンケートにおける自転車利用環境の満足度は低くなっており、安全・快適に自転車を利用できる環境づくりを進めていく必要があります。
- 多くの交通が都心部に集中し、都心周辺では著しい渋滞が発生しているため、流出入交通の分散・誘導や通過交通の排除により、路線バスを含め円滑な交通を確保する必要があります。また、市民が安心して利用できる生活道路の整備など、生活者の視点に立った安全な道路づくりを進める必要があります。

路線バス利用者数の推移



(資料) 交通事業者各社提供

路線バスの運行区間延長



(資料) 岡山市担当課調べ

施策の方向性

施策① 公共交通中心の利便性の高い交通ネットワークの構築

- 利便性の高い公共交通サービスを安定的に提供するため、「岡山市地域公共交通計画」に基づき、バス路線の再編、利用環境・業務環境の改善、利用しやすい運賃体系の構築に取り組みます。
- 都心の回遊性向上や都心と地域の拠点を結ぶ交通連携軸における公共交通の利便性の向上を図るため、路面電車のネットワーク化や桃太郎線LRT化などの基幹的公共交通の強化に取り組みます。
- 定時性・速達性に優れた鉄道の利便性向上を図るため、駅前広場整備等による交通結節機能の強化やバリアフリー化などサービス水準の向上に取り組みます。

施策② 地域における生活交通の確保

- 公共交通が身近になく、買い物や通院等の日常生活における移動が不便な地域では、地域住民及び交通事業者との連携により、地域特性に応じた生活交通（デマンド型乗合タクシー）の導入に取り組みます。
- すでに生活交通を導入している地域では、生活交通の維持と利用促進を図るため、地域のニーズに応じた運行計画や運賃の見直し等の改善に取り組みます。

施策③ 自転車先進都市の推進

- 誰もが自転車を安全で快適に楽しく使える都市をめざして、自転車で走り、楽しむことのできる通行環境を整備するとともに、放置自転車解消に向けた取組を進めます。
- 回遊性向上やまちのイメージアップなどの効果があるシェアサイクル「ももちやり」の充実を図ります。
- 自転車等のルール遵守・マナー向上に向けて、より一層関係機関との連携

による指導・啓発を推進します。

施策④ 道路ネットワークの充実・強化

- 都心部やその周辺における渋滞を緩和するため、外環状線・中環状線の整備やボトルネック交差点の改良を実施するとともに、地域の拠点から都心へのアクセス性を高めるため、放射状道路等の整備を進めます。
- 地域高規格道路である主要地方道佐伯長船線（美作岡山道路（瀬戸ジャンクション～熊山インターチェンジ））の整備を通じて、高速道路との連携強化を進め、物流拠点等へのアクセス性向上を図るとともに、流通機能の向上や産業活動の拡大を促進します。
- 狭小幅員の道路改良や交通安全施設の整備など、市民生活に身近な生活道路の整備を進めます。

(参考資料)

成果指標

指標名	基準値	目標値
	R6	R12
市民1人当たりの公共交通利用回数	83回/年・人	100回/年・人
公共交通アクセス圏外に居住する人口	18.2万人 (R2)	16.2万人
市全域の自転車関係事故件数	588件	500件
主要渋滞箇所数	40箇所	32箇所

主な事務事業

施策① 公共交通中心の利便性の高い交通ネットワークの構築	
地域公共交通利便増進事業の推進	都市整備局
・「岡山市地域公共交通利便増進実施計画」に基づく、バス路線の再編や利用環境・業務環境の向上に資する各種施策の推進	
鉄道の利便性向上	都市整備局
・桃太郎線LRT化の検討や駅前広場等の交通結節点強化	
まちなかの魅力や賑わいをつなぐ公共交通の利便性向上[再掲]	都市整備局
・路面電車の岡山駅前広場への乗り入れ及びネットワーク化に向けた取組の推進 ・岡山駅東口駅前広場の再整備による魅力と利便性の向上	

バスの利便性向上	都市整備局
・車両及びバス停のバリアフリー化やサイクル&バスライド駐輪場の整備、バス路線の渋滞解消のための道路整備等 ・バス路線の見える化やデジタルサイネージによるわかりやすい運行情報の提供 ・高齢者・障害者の運賃割引の実施	
モビリティマネジメント	都市整備局
・公共交通マップの配布、小学生を対象としたバス教室などの公共交通の利用促進	

施策② 地域における生活交通の確保	
生活交通の維持・改善	都市整備局
・コミュニティバスや生活交通の運行経費の一部助成、利用促進に資する運行サービスの改善	
新たな生活交通（デマンド型乗合タクシー等）の導入	都市整備局
・地域住民及び交通事業者との連携による、買い物や通院などの日常生活における移動が不便な地域への新たな移動手段の導入の推進	
タクシーの利用環境改善	都市整備局
・予約・決済アプリなどICT技術の活用やユニバーサルデザイン車両の普及促進、運転手の確保支援	

施策③ 自転車先進都市の推進	
自転車通行空間の整備	都市整備局
・自転車利用ニーズや道路状況に応じた、安全で快適な自転車通行空間の整備	

駐輪場の整備	都市整備局
・駐輪需要に応じた駐輪施設の整備及び放置禁止区域の指定・拡充	
シェアサイクルの充実	都市整備局
・ポート増設やエリア拡大、電動アシスト付き自転車の導入など、シェアサイクルの利便性向上や利用促進	
自転車等のルール遵守・マナー向上	市民協働局、都市整備局
・交通安全教室や街頭啓発活動などによる自転車等の交通ルール・マナーの周知及び放置自転車の解消に向けた指導・啓発	
サイクリング環境の充実	都市整備局、産業観光局
・サイクリングルートの安全性及び快適性の向上や休憩施設等の充実、観光振興・健康づくりと連携した自転車利用の促進等	

施策④ 道路ネットワークの充実・強化	
外環状線（岡山環状道路）・中環状線の整備	都市整備局
<ul style="list-style-type: none"> ・市街地に流入する交通の分散・誘導による渋滞緩和や安全な通行の確保を目的とした、主要地方道岡山赤穂線、市道江並升田線の整備 ・都心に集中する交通の分散・誘導を目的とした、都市計画道路下中野平井線の整備、都市計画道路米倉津島線の整備 	
放射状道路等の整備	都市整備局
・主要渋滞箇所の渋滞解消や連絡機能の強化を目的とした主要地方道岡山児島線の整備、主要地方道岡山吉井線等の整備	
広域交通網の整備	都市整備局
・広域交流の強化、高速道路へのアクセス強化を目的とした主要地方道佐伯長船線（美作岡山道路（瀬戸ジャンクション～熊山インターチェンジ））の整備	
生活道路の整備	都市整備局
<ul style="list-style-type: none"> ・狭小幅員の道路改良による緊急車両通行困難地域の解消等 ・踏切内の歩道設置や交通安全施設の整備等による生活道路の安全確保 	

政策 26 人と自然が豊かに共生できる環境づくり（自然・生活環境）

現状と課題

- 国は生物多様性国家戦略における重点施策として「ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現」を掲げており、原生的な自然環境の保全に加えて、身近な自然など二次的な自然環境も含めて保全を進めるため、国だけでなく、地方公共団体、企業、団体及び個人による活動を促進しています。
- 岡山市は人口約70万を擁する大都市でありながら、市域の約7割を農地や里山が占め、岡山駅近くの用水にホタル、都心部近郊の市街地に絶滅危惧種のアユモドキが生息するなど、多様で豊かな自然環境に恵まれています。
- 一方、人の営みの変化等により、一部の自然環境は失われつつあるため、生物多様性の重要性に関する地域全体の理解を高めるとともに、生物多様性の豊かな場所の維持や、生物多様性が失われている場所において、多様性の回復や創出を図るため、市民や事業者、行政が互いに課題・目標を共有し連携を強化して取り組むことが求められています。
- 工場等から大気や公共用水域に排出される汚染物質は、法令による規制に加え、事業者の自主的な取組により排出量が削減されています。加えて、土壌汚染対策やアスベスト対策等の重要課題を含め、快適な生活環境を確保するため、継続的に環境監視を行い、汚染物質の排出を抑制していくことが求められています。
- 環境学習・環境教育の充実や、環境パートナーシップ事業をはじめとする市民、事業者の自主的な活動への支援等により、地域における環境保全活動の継続性を高めていく必要があります。

- 岡山市では、「岡山市美しいまちづくり、快適なまちづくり条例」により毎月第3日曜日を「美しいまちづくりの日」と定め、市民、事業者、行政の協働により美しく快適なまちづくりを推進しています。路上喫煙禁止区域での路上喫煙者数は横ばい傾向にあるものの、美化推進重点区域内でのごみのポイ捨て数は増加してきており、引き続き市民や事業者との協働による環境美化活動に取り組んでいくことが求められています。

岡山市の重要生態系



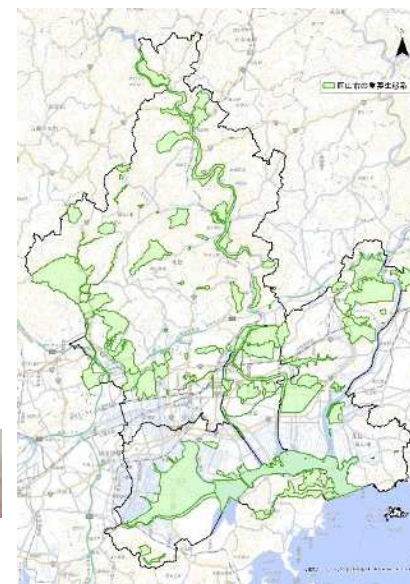
セツブンソウ



オオタカ



アユモドキ



(資料) 岡山市担当課調べ

※「国土数値情報(行政区域データ)」

及び「地理院タイル」(国土交通省)を加工して作成

施策の方向性

施策① 生物多様性の保全と環境との共生

- 身近な場所で多様な自然風景や野生生物に触れ合える環境を保全し、次世代に引き継いでいくため、科学的な知見と多様な主体の参画により策定した「生物多様性おかやまプラン」に基づき、地域住民、企業、NPO等と連携・協働し、身近な生きものや希少野生生物の保護等を戦略的に推進します。
- 一定規模以上の開発事業に対する関係環境法令に基づく規制・指導を行うとともに、岡山市環境影響評価条例等の運用により、きめ細かい環境配慮を推進します。

施策② 環境負荷低減への取組

- 環境基準の達成・維持のため、大気、水質等の常時監視を引き続き実施するとともに、未規制化学物質についても、国の動向を注視しながら、継続した調査の実施や正確で迅速な情報提供に努めます。
- 法改正等で更なる対応が求められている土壤汚染対策やアスベスト対策等の重要課題に適切に対応するため、工場・事業場等への立入調査を充実させ、継続的な監視・指導を実施し、有害物質の飛散・拡散の未然防止及び法令遵守意識の向上を図ります。

施策③ 環境学習・環境活動の推進

- 多様な主体との連携による自然体験プログラムの実施や生物多様性の保全に取り組む企業活動の支援、地域での主体的な環境保全活動の担い手づくりを進めるとともに、岡山ESDプロジェクトとも連動しながら、公民館や学校等での環境教育・学習活動を推進し、環境保全活動の輪を広げます。

施策④ 市民、事業者との協働による美しく快適なまちづくり

- ごみのポイ捨てや路上喫煙を防止するための活動を継続するとともに、美化推進重点区域内外での一斉清掃への参加呼びかけや、「美しいまちづくりの日」における自主的な清掃活動などを通じて、市民、事業者による環境美化活動を推進します。また、三大河川流域の関係市町との協力により、河川及び海の環境美化活動を進めます。さらに、地域住民で組織され、身近な環境美化活動に取り組む環境衛生協議会の円滑な運営のための支援を行います。
- 美しく快適なまちづくりに向けて、多様な媒体を活用した広報・啓発を行うとともに、特に貢献した市民、事業者の顕彰等を行います。

(参考資料)

成果指標

指標名	基準値	目標値
	R6	R12
自然共生サイト認定地区数	2 地区	10 地区
大気・水質・土壌環境基準値 (SO ₂ 、NO ₂ 、CO、SPM、BOD、ダイオキシン類) 達成率	100%	100%
環境学習プログラム参加者数	52, 713 人	70, 000 人
美化推進重点区域内のごみのポイ捨て数 (1 主要通り当たりの 1 日平均)	107 個	80 個

主な事務事業

施策① 生物多様性の保全と環境との共生	
自然保護事業	環境局
<ul style="list-style-type: none">・「生物多様性おかやまプラン」に基づく多様な主体と連携した保全活動の推進・自然共生サイトの候補地発掘の推進及び自然共生サイトの認定や継続認定の支援・自然環境の状況把握などを行う重要生態系リスト、生きものマップの作成及び自然環境モニタリングの推進・岡山市環境影響評価条例等の運用による適切な環境配慮の推進・身近な野生生物をシンボルにした主体的な生物多様性保全活動を行っている地域を「身近な生きもの里」に認定し、活動を支援・生物多様性の保全に関する情報発信又は普及啓発を推進するための拠点等の仕組みづくり・市民参加による生き物調査及び保護団体と連携した希少種保護事業の推進	

施策② 環境負荷低減への取組

大気保全対策事業	環境局
<ul style="list-style-type: none">・大気汚染防止法に基づく大気の汚染の状況の常時監視・大気汚染防止法、騒音規制法等に基づく工場・事業場等への立入調査・指導・建築物等の解体等工事を対象とした立入調査等によるアスベスト飛散防止対策の推進	
水質保全対策事業	環境局
<ul style="list-style-type: none">・水質汚濁防止法に基づく公共用水域及び地下水の水質の汚濁状況の常時監視・水質汚濁防止法に基づく特定事業場等及び土壌汚染対策法に基づく要措置区域等の立入調査・指導・未規制化学物質(PFAS)の継続監視	

施策③ 環境学習・環境活動の推進

環境づくり支援事業	環境局
<ul style="list-style-type: none">・自然環境や生物多様性についての意識向上を目的とした、多様な主体が開催する自然体験プログラムに対する支援・地域イベントや体験学習等を通じて、里地里山里海の地域づくりを担う新たな人材確保の枠組み形成を推進・地域で自発的に環境を保全・創造する活動を実践する市民や団体等を「エコボランティア」として位置づけて活動を支援	

施策④ 市民、事業者との協働による美しく快適なまちづくり

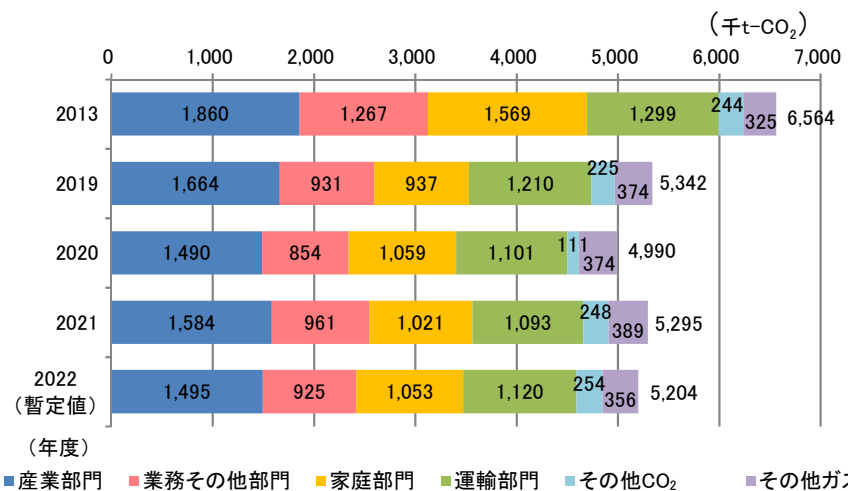
環境美化推進事業	環境局
<ul style="list-style-type: none">・美化推進重点区域・路上喫煙制限区域での巡回指導や広報・啓発活動の実施・一斉清掃等の美化イベントの実施や地域での美化活動への支援	

政策 27 脱炭素社会をめざす環境にやさしいまちづくり（気候変動対策）

現状と課題

- 温暖化による地球規模での気候変動は、人類の生存基盤に関わる深刻な問題となっています。平成27年の「国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）」における「パリ協定」では、世界的な平均気温上昇を工業化以前に比べて1.5℃に抑えることが目標とされ、平成30年の気候変動に関する政府間パネルの特別報告書においては、2050年に温室効果ガス排出量を実質ゼロにする必要があることが明示されました。
- 国は令和2年に、2050年に温室効果ガス排出量実質ゼロをめざすことを宣言し、令和3年には、2030年度に温室効果ガスについて、2013年度比で46%の削減をめざすことを表明しました。さらに、令和7年に改定した「地球温暖化対策計画」では、2035年度に60%、2040年度に73%の削減をめざすことを掲げています。
- 岡山市では、令和2年に「世界首長誓約／日本」に署名し、持続可能なエネルギーの推進、国の目標以上の温室効果ガス排出量の削減、気候変動の影響への適応と強靱な地域づくりに取り組むことを宣言しました。また、令和3年には「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言」を行い、岡山連携中枢都市圏の枠組みも活用しながら脱炭素社会の実現に向けた取組を進めています。
- 岡山市における温室効果ガス排出量の推移をみると、産業部門、業務その他部門、家庭部門において、2013年度以降の減少傾向を維持していますが、2050年度目標の達成に向けては、市民、事業者と連携しながら、徹底した省エネルギーの推進、再生可能エネルギーや水素など次世代エネルギーの利活用を推進し、温室効果ガスの削減により一層取り組む必要があります。
- また、運輸部門の排出量も減少傾向にあるものの、排出量全体の約20%を占めています。そのため、コンパクトでネットワーク化されたまちづくりを進める中で、自家用車の過度な利用の抑制や、歩行者、自転車、公共交通優先の環境にやさしい交通体系への転換を進めるとともに、環境にやさしいライフスタイル・ビジネススタイルへの転換を促進し、電気自動車などの次世代自動車の導入や、エコドライブの推進に一層取り組むことで、温室効果ガスの削減につなげていく必要があります。
- その上で、今後は一定の気候変動の影響は避けられないものとして、その影響による被害を回避・軽減するための適応策について、市民、事業者と連携して取り組むことが求められています。

温室効果ガス排出量の推移



(注1) 業務その他部門とは、事務所・オフィスビル、ホテル・旅館、卸・小売業、飲食店、学校、病院等で消費したエネルギーを計上する部門。

(注2) その他 CO₂ は、廃棄物の焼却等に伴い排出する CO₂ の合計。

(注3) その他ガスは、「メタン」「一酸化二窒素」「代替フロン等4ガス」の合計。

(注4) 「2022(暫定値)」は、推計のベースとなる資源エネルギー庁「都道府県別エネルギー消費統計」が暫定値であるため。

(注5) 端数処理の関係上、各項目を足し合わせた値と合計が一致しない場合がある。

(資料) 岡山市担当課調べ

施策の方向性

施策① 再生可能エネルギーの活用と省エネルギー化の促進

- 脱炭素型の都市の実現に向けて、エネルギーの地産地消、省エネルギー化、安定的なエネルギー確保や未利用エネルギーの利活用などにより温室効果ガスの削減を図ります。
- 住宅や事業所、市有施設での再生可能エネルギー、省エネルギー設備、蓄エネルギー設備の導入を総合的に進め、市域全体での効率的・効果的なエネルギーの利活用を進めます。
- 岡山連携中枢都市圏の市町等と協力して、脱炭素社会の実現に向けた新たな取組について検討を進めます。
- 市民との協働により、廃食用油を活用したバイオディーゼル燃料（BDF）の使用拡大のための普及啓発等を実施します。

施策② 環境にも人にもやさしいライフスタイルへの転換

- 脱炭素化に当たっては、市が率先して再生可能エネルギーの導入やエネルギーの削減に取り組むとともに、脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを後押しする国民運動「デコ活」のもとで、環境にやさしい市民生活や事業活動に向けた意識改革と実践を促進します。
- 車優先から人優先のまちづくりを進める中で、低炭素型の交通体系をめざし、歩いて楽しい道路空間の整備をはじめ、鉄道・路面電車・バス・自転車の利用環境の向上や利用促進など、公共交通中心の環境にやさしい交通ネットワークの構築を進めます。
- 気候変動の影響による自然災害や健康分野等での被害を回避・軽減するための適応策の実施については、引き続き各分野の施策を行うとともに市民や事業者と連携して取り組みます。

(参考資料)

成果指標

指標名	基準値	目標値
	R6	R12
温室効果ガス排出量	5,204 千 t-CO ₂ (R4 暫定)	3,606 千 t-CO ₂
地球温暖化防止行動の実践度	56.5% (R5)	65% (R11)

主な事務事業

施策① 再生可能エネルギーの活用と省エネルギー化の促進	
地球温暖化対策事業	環境局
・徹底した省エネルギーの推進 ・再生可能エネルギー等次世代エネルギー導入の推進 ・電気自動車等の普及促進 ・岡山連携中枢都市圏の市町等との取組の検討	
バイオ燃料地域利用事業	環境局
・バイオディーゼル燃料(BDF)の普及促進、啓発事業の実施	

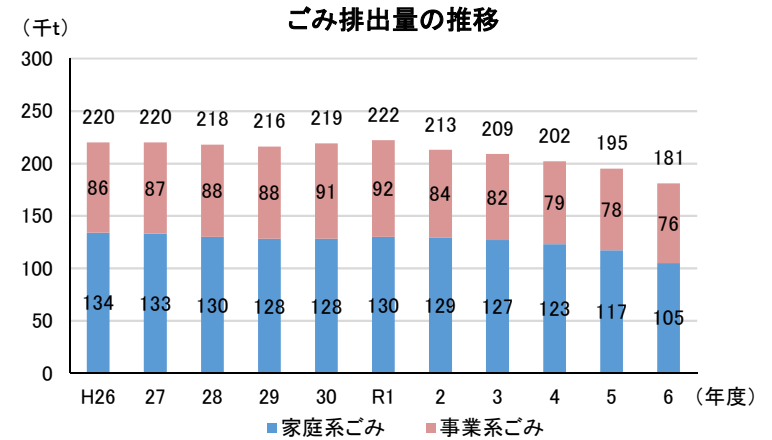
施策② 環境にも人にもやさしいライフスタイルへの転換	
温暖化防止に向けた意識改革と行動喚起	環境局
・温暖化の防止に向けた市民・事業者の行動変容を促す啓発活動の実施 ・環境負荷低減に向けた事業者の継続的な取組への支援	

人とまちを元気にする交通ネットワークの構築[一部再掲]	都市整備局
・公共交通中心の利便性の高い交通ネットワークの構築	
気候変動適応策の推進	環境局
・各分野における適応策の推進 ・適応策についての市民・事業者への情報提供 ・気候変動適応法に基づくクーリングシェルターの指定	

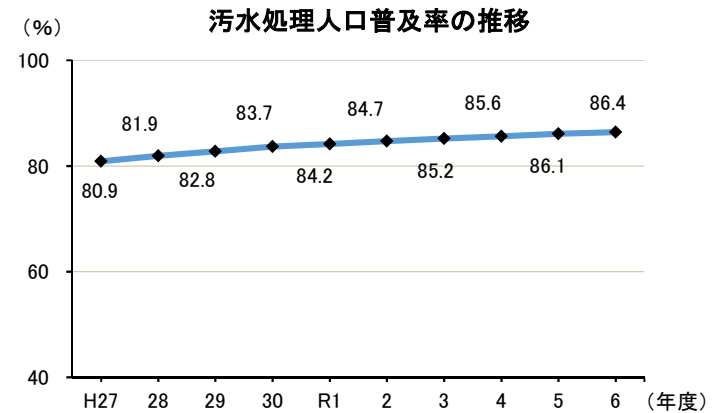
政策 28 みんなで進める循環型社会の構築（循環型社会）

現状と課題

- 岡山市では、「岡山市一般廃棄物処理基本計画」に基づき廃棄物の減量化・資源化を進めており、家庭系ごみでは食品ロスの削減を推進するとともに、令和6年3月からはプラスチック資源の分別回収を開始したことなどにより、ごみ排出総量は減少傾向にあります。
- プラスチックは、ポイ捨てなどの不適正な処分により、用水路や河川などを通じて海に流出することで、深刻な海洋環境汚染をもたらすため、プラスチックごみ削減等の対策に向けた市民・事業者の行動変容を促す必要があります。
- 市民、事業者と一体となって、リデュース（ごみを減らす）、リユース（繰り返し使う）、リサイクル（再資源化する）、リニューアブル（再生可能な資源に替える）を推進することにより、循環型社会を構築していく必要があります。また、環境性に優れ、より効率的・経済的なごみ処理の広域化を推進していくとともに、老朽化した廃棄物処理施設を計画的に改修し、持続的な処理機能を確保する必要があります。
- 産業廃棄物の適正処理を推進するため、消防ヘリコプターによる上空監視を実施し、これまで確認が困難とされていた山間部等の監視を重点的に強化しており、引き続き、不法投棄対策を推進する必要があります。
- 令和6年度末の污水処理人口普及率は86.4%、下水道処理人口普及率は69.3%となっており、いまだ9万4千人の市民が污水処理施設を利用できない状況にあるため、今後の人口減少などを踏まえつつ、総合的な污水処理対策を推進していく必要があります。



(資料)岡山市担当課調べ



(資料)岡山市担当課調べ

施策の方向性

施策① ごみの減量化とリサイクルの推進

- 広報紙等による広報やごみ分別アプリの普及、公民館講座や出前講座等での啓発活動を展開するとともに、リユースぶらざでの不用品活用や資源回収団体への報奨金の交付等の資源循環に向けた取組を推進します。
- プラスチックごみを減らすため、マイバッグやマイボトルの持参、使い捨てプラスチック製品の使用抑制など、市民、事業者による取組を推進します。
- プラスチックごみの海洋への流出を抑制するため、「岡山市海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」に基づき、海洋プラスチックごみ問題の解決に向けた取組を推進します。
- 事業系ごみについて、減量計画書の提出や顕彰制度により、優良事業者の育成を図るほか、ガイドブックの利用促進や施設搬入時の分別指導の徹底等を通じて、事業者とともに減量化とリサイクルに取り組みます。
- 一般廃棄物の中間処理施設での再資源化等を進め、ごみの焼却量・埋立て量を削減し、最終処分場の延命化を図ります。

施策② 廃棄物の適正処理の推進

- 「岡山市可燃ごみ広域処理施設整備基本計画」に基づき、広域的なごみ処理に対応する焼却施設の整備を玉野市、久米南町と連携して進めるとともに、老朽化した設備の改修や機能更新等を行い、既存施設の延命化を進めます。
- 産業廃棄物の不法投棄の未然防止や早期発見のため、監視指導体制を確保し、不適正処理事案に対する早期対応、拡大防止等を徹底します。

施策③ 総合的な汚水処理対策の推進

- 市民の健康で快適な暮らしや良好な水環境を保全するため、公共下水道、農業集落排水、合併処理浄化槽等の適切な役割分担のもと、総合的な汚水処理対策を推進します。
- 市内には下水道処理場8箇所、汚水中継ポンプ場15箇所を有しており、故障により施設が稼働停止に陥った場合には、適正な汚水処理に大きな影響を及ぼすことから、計画的・継続的に老朽化対策に取り組みます。
- 公共下水道や農業集落排水の処理場の統廃合を推進し、維持管理の効率化等を図ります。

(参考資料)

成果指標

指標名	基準値	目標値
	R6	R12
ごみの資源化率	35.9%	38.7%
市民1人1日当たりのごみ排出量	713g	658g
汚水処理人口普及率	86.4%	88%

主な事務事業

施策① ごみの減量化とリサイクルの推進	
資源循環指導・啓発事業	環境局
・市民、事業者に向けた減量化・資源化に関する意識と行動の変容を促す情報提供や、ごみ分別アプリ・出前講座等による周知啓発 ・排出されたごみの組成分析による資源化物の混入割合の調査 ・海洋に流出するプラスチックごみを減らす取組	
減量化・資源化対策事業	環境局
・資源回収活動を行う団体への支援や生ごみ削減活動の促進、資源化物の拠点回収の実施 ・事業系ごみガイドブックの作成	
焼却残さの再資源化推進	環境局
・焼却施設から排出される焼却残さの再資源化	

施策② 廃棄物の適正処理の推進

ごみ処理体制の効率化・ごみ処理施設の延命化	環境局
・「岡山市可燃ごみ広域処理施設整備基本計画」に基づく、岡南環境センター、玉野市東清掃センター、岡山市久米南町衛生施設組合クリーンセンターを統合した広域的な焼却施設の令和9年度稼働に向けた整備 ・老朽化した設備の改修や機能更新等	
産業廃棄物対策事業	環境局
・産業廃棄物の最終処分場からの放流水質や、同焼却施設の排ガス中のダイオキシン類濃度等に関する行政検査の実施 ・産業廃棄物の処理施設の設置者等に対する必要な指導の実施	
産業廃棄物不法投棄等対策事業	環境局
・産業廃棄物の不法投棄等の不適正処理事案の未然防止及び早期対応	

施策③ 総合的な汚水処理対策の推進

下水道整備事業	下水道河川局
・公共下水道と合併処理浄化槽との適切な役割を踏まえた効果的、効率的な下水道整備	
合併処理浄化槽設置補助金事業	環境局
・下水道整備計画のない地域や下水道整備の予定が当面ない地域における、自宅に合併処理浄化槽を設置する個人に対する補助金の交付	
汚水処理施設の統廃合	下水道河川局
・公共下水道や農業集落排水の処理場の統廃合の推進	

下水道管きよの長寿命化、耐震化[再掲]	下水道河川局
・重要な幹線等の管きよ及びマンホールの点検・調査、耐震化、改築更新	
下水道施設（処理場、ポンプ場）の長寿命化、耐震化[再掲]	下水道河川局
・老朽化した処理場、ポンプ場の点検・調査及び改築更新 ・旧耐震基準施設の耐震化や耐水化	

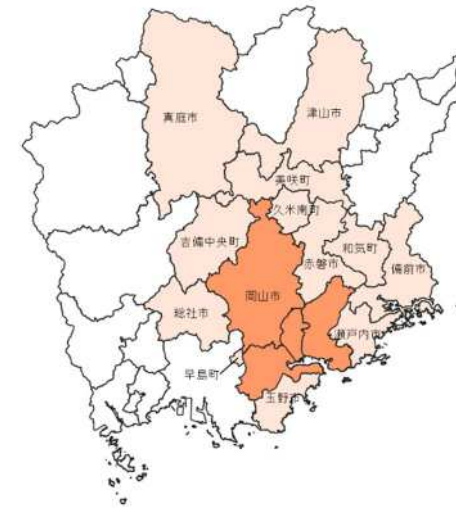
政策 29 人口減少社会を踏まえた行政の推進（地方創生・広域連携・大都市制度）

現状と課題

- 岡山市では平成27年から2期にわたる「岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少に係る緩和・適応策について多面的に取り組んできました。これから年少人口及び生産年齢人口の減少と高齢化が一層進展する中で、人口減少傾向を和らげながら、地域経済の成長と生活の質の向上との好循環を生み出すことが重要となっています。また、人口の偏在が各地域で進む中、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる持続可能なまちづくりを進める必要があります。さらに、若年層の東京圏・大阪圏への転出超過が加速している状況にあることを踏まえ、若者等にとって魅力的で働きやすく、暮らしやすいまちづくりを進め、岡山市が県内や中四国圏域全体の進学・就職の受け皿となり、大都市圏への人口流出を防ぐダム機能を一層発揮することが求められています。
- 少子高齢化や人口減少が進行し行政資源の制約が高まる中、地域経済を活性化し、持続可能な形で住民生活を支えていくためには、広域的な連携を推進することが重要となっています。岡山市と周辺12市町で形成する「岡山連携中枢都市圏」では、将来にわたって持続可能な活力ある社会経済を有する圏域の確立をめざして、経済成長のけん引、高次の都市機能の集積・強化、生活関連機能サービスの向上に取り組んでおり、連携による取組をさらに深化させていく必要があります。
- 岡山市は、政令指定都市として大都市特有の行財政需要に対応しながら、市民ニーズと地域の実情に沿った行政サービスを提供しています。市民サービスの質を一層高め、圏域全体の発展をけん引するべく、先駆的・先導的な役割を果たしていくためにも、政令指定都市の事務・権限や税財源の更なる

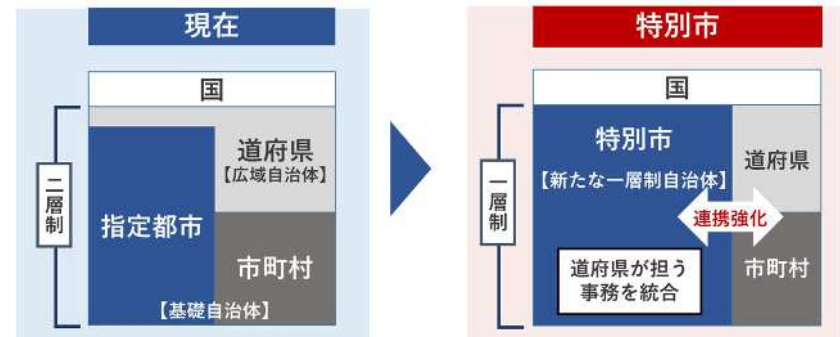
拡充、社会経済状況や市民ニーズの変化等を的確に把握しながら、県との適切な役割分担のもとで積極的に施策を推進することが求められています。

岡山連携中枢都市圏 圏域図



(資料) 第2期岡山連携中枢都市圏ビジョン

特別市制度の概要



(資料) 指定都市市長会資料より作成

施策の方向性

施策① 地方創生の推進

- 「第3期岡山市地方創生総合戦略」に基づき、岡山市の強みと特性を最大限にいかした施策を展開し、地域経済の活性化を図るとともに、人口減少社会に適応した生活サービスの維持や地域コミュニティの活性化を通じて、性別や世代にかかわらず、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めます。また、固定的な性別役割分担意識、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の解消に努めるなど、若者や女性にとって魅力のある働き方や職場の創出につながる取組を推進します。

施策② 圏域をリードする広域連携の推進

- 将来にわたって持続可能な活力ある社会経済を有する圏域を確立するため、「岡山連携中枢都市圏ビジョン」に基づく連携事業の更なる充実を図ります。また、住民の生活圏等を基礎とした近隣自治体との連携や、より広い圏域を視野に入れた自治体との連携施策を推進します。

施策③ 大都市制度の推進

- 大都市としてのポテンシャルを最大限に発揮できるよう、更なる事務・権限・税財源の移譲はもとより、大都市が市域のすべての地方行政を一元的に担う「特別市」の早期法制化等を通じた、真の地方分権改革の実現について、国に対して積極的に働きかけます。

(参考資料)

成果指標

指標名	基準値	目標値
	R6 (R5)	R12 (R11)
岡山市に住み続けたいと考える市民の割合	77.1% (R5)	85% (R11)

主な事務事業

施策① 地方創生の推進

岡山市地方創生総合戦略の推進

政策局

- ・「岡山市地方創生総合戦略」に基づく取組の推進
- ・国の交付金や地方創生応援税制等を活用した地方創生の推進
- ・学生が地域社会や市内企業等との協働により実施する地域課題の解決等に資する活動への支援[再掲]

施策② 圏域をリードする広域連携の推進

連携中枢都市圏ビジョンに基づく連携取組の推進

政策局

- ・「岡山連携中枢都市圏ビジョン」に基づく連携取組の推進
- ・8市5町の首長で構成する岡山都市圏連携協議会を中心とする、連携取組の推進に向けた協議

瀬戸内4県都市の連携推進

政策局

- ・岡山市・広島市・高松市・松山市で構成する「瀬戸内4県都市長会議」の定期的な開催、連携施策の推進

施策③ 大都市制度の推進

指定都市市長会を通じた取組の推進

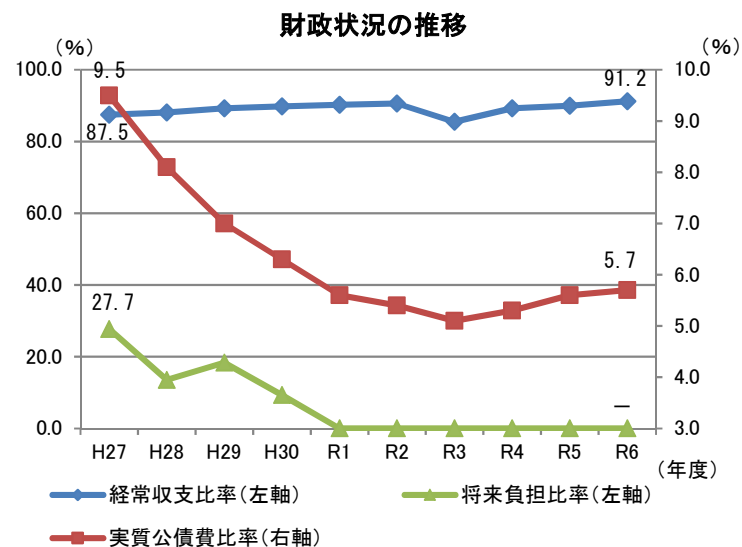
政策局

- ・大都市が市域のすべての地方行政を一元的に担う「特別市」制度の実現や事務・権限の移譲等についての指定都市市長会等を通じた国への要請等

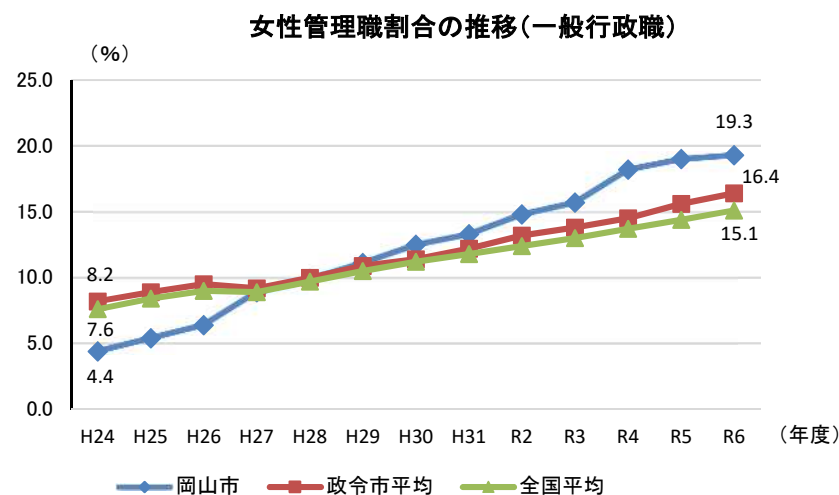
政策 30 将来世代に責任を持つ持続的な行財政運営（行財政運営）（行財政改革推進プラン）

現状と課題

- 人口減少や高齢化が進行する社会において、デジタル技術の急速な進展やインフラの老朽化、大規模災害等への適切な対応が求められる中、総合計画に基づくまちづくりを進めるためには、将来世代に責任を持つ行財政改革の推進により、財政運営の健全性を確保していく必要があります。
- 公共施設等の約7割が築後30年以上経過し、今後、改修・更新等にかかる費用の増加が見込まれる中で、市民サービスを安定的に提供していくためには、公共施設等の機能や規模の最適化を図りつつ、適切に管理・運営を行う必要があります。
- 市政を取り巻く環境が複雑化・多様化する中で、市民の信頼と期待に応えることのできる市役所づくりを進めるためには、時代の変化に柔軟に対応できる組織体制を構築し、様々な行政課題に的確に対応するとともに、質の高い市民サービスを提供していく必要があります。
- 市民サービスの向上と行政事務の効率化を図るため、「書かない窓口」の導入による窓口改革やRPAの活用などを進めてきました。引き続き、オンライン申請の拡充や、AIの活用などによるDXの推進が求められています。
- 市民サービスを安定的、持続的に提供していくためには、職員一人ひとりの適正な業務遂行を支える体制の確立が求められています。また、市民が市政を身近に感じ、信頼と共感を抱けるようにするためには、様々な機会・手法を通じて市民の意見を的確に把握し、市政運営に反映するとともに、市政情報の発信力を向上させていく必要があります。



(資料) 岡山市の財政状況 (第27版)



(資料) 内閣府男女共同参画局「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」

施策の方向性

施策① 健全で持続可能な財政運営

- 既存事業の抜本的な見直しや経常的経費の見直しの徹底、有利な財源の活用等により、必要な財源確保を図ることで、財源調整のための基金の残高を一定程度保ちつつ、市債の残高や指標にも留意しながら、将来世代に負担を先送りしない中長期的な展望に立った健全で持続可能な財政運営を行います。

施策② 公共施設等の適正な管理と有効な活用

- 道路、上下水道等の社会基盤を含めた公共施設等の総合的で一体的なマネジメント計画に基づき、人口構造の変化等に伴う施設需要の変化を見据えながら、集約化や複合化・多機能化等による施設配置の最適化や総量の適正化、施設の長寿命化を進めることにより、財政負担の軽減・平準化を図り、安定的な市民サービスの確保に努めます。

施策③ 時代の変化に柔軟に対応する組織づくり

- 市を取り巻く環境の変化に伴い複雑化・多様化する新たな行政課題に対応するため、政策分野の重要度に応じて、メリハリをつけて職員配置できるよう、組織を最適化します。
- 組織全体で職員の能力を高め、その力を最大限に引き出すよう取り組むとともに、職員がやりがいや成長実感を得られるよう支援し、新たな行政課題の解決に向けて果敢に挑む組織文化を醸成します。あわせて、DXの推進を支える人材の確保・育成に努めます。
- 多様で柔軟な働き方ができる職場環境を整備し、性別やライフステージにかかわらずすべての職員が活躍できる市役所をめざします。

施策④ 市民サービス向上のためのDXの推進

- 市民や事業者が市役所等の窓口に行かなくても、いつでも、どこでも、迅速かつ簡単に行政手続きを完結できることをめざして、行政手続きのオンライン化等を推進します。
- AIやRPA等のデジタル技術の活用、BPRの実施、システムの標準化・共通化を進め、業務の効率化を図ります。

施策⑤ 信頼と共感を得る市政運営

- 広報紙やホームページ、SNS等の様々な媒体を用い市政情報の発信内容や伝え方の工夫に努め、より多くの市民に向けて、わかりやすく伝わりやすい方法で市政情報を発信します。あわせて、オープンデータの充実を図ります。
- 市民団体との懇談会やパブリックコメントなどを通じて市民ニーズを的確に把握し、市政運営への活用を図ります。
- 「岡山市の内部統制に関する方針」に基づき、事務の適正な執行を確保するための仕組みを充実させ、職員一人ひとりの適正な業務遂行を実現します。
- DXの推進に当たっては、個人情報適切な取扱いと情報システムの安全性を確保するため、情報セキュリティ対策の徹底に努めます。
- 市の諸活動や歴史的事実の記録である公文書が、市民共有の知的財産であることに鑑み、適正な公文書管理や市民が歴史的公文書を利活用できる環境の整備により、現在及び将来の市民に対して説明責務を果たします。

(参考資料)

成果指標

指標名	基準値	目標値
	R6	R12
実質公債費比率	5.7%	政令市平均値 以下
無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）によりキャリア形成が阻害されていると感じる職員の割合	—	0%
主な証明書のコンビニ交付サービスによる交付率	31.4%	60%
市から必要な市政情報を得ることができると思う人の割合	45.7% (R5)	50% (R11)

主な事務事業

施策① 健全で持続可能な財政運営

財政運営の健全性確保	財政局
・経常的経費の見直しの徹底と、有利な財源の活用や新たな歳入確保などによる必要な財源の捻出	

施策② 公共施設等の適正な管理と有効な活用

公共施設等マネジメント推進事業	財政局
・「岡山市公共施設等総合管理計画」と「個別施設計画」に基づく公共施設等マネジメントの推進	
・未利用地等の売却及び民間利用等の促進	

施策③ 時代の変化に柔軟に対応する組織づくり

適正な定員管理	総務局
・定員管理の適正化を図る方針に基づく適正な定員管理の実施	
人材育成と成長支援を通じた職員の能力向上	総務局、政策局
・職員の能力や意識・意欲の向上に向けた研修の充実や、職員の育成及びキャリア形成を念頭に置いた人事配置等	
・DXの推進を支える人材の確保・育成	
すべての職員が活躍できる職場づくり	総務局
・性別にとらわれない適材適所の人事配置や研修等によるキャリア形成意識の醸成による、より多様性を備えた組織づくりの推進	
職員のワーク・ライフ・バランスの推進	総務局
・職員の心身を健康に保ち、職務へ意欲を高めるため、仕事と家事、子育て、介護等が両立できる職場づくりや、AI等を活用した業務改善等の働き方改革の推進	

施策④ 市民サービス向上のためのDXの推進

窓口サービスの向上	政策局
・証明書のコンビニ交付や行政手続きのオンライン化の推進	
・窓口手続きの負担を軽減するための書かない窓口の推進	
・公金支払手続きのデジタル化の推進	
業務の効率化	政策局
・AI、RPA等のデジタル技術の活用や、業務プロセス等の抜本的な見直し	
・情報システムの標準化・共通化	
・ペーパーレス化の推進や、オンライン会議の活用等のワークスタイルの見直し	

施策⑤ 信頼と共感を得る市政運営	
伝わりやすい市政情報の発信	市長公室
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報紙やホームページ、SNS等、様々な広報媒体の特性をいかし、市民の声を取り入れながら「伝わる」ことを意識した市政情報の発信 	
適正な内部事務の統制と広聴機能の充実	市長公室、政策局、総務局
<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な事務執行の確保のため、内部統制制度の充実 ・ 公文書等の適切な管理による、市政の適正かつ効率的な運営 ・ 情報セキュリティ対策の徹底 ・ 市民団体との懇談会、パブリックコメントなどによる市民ニーズの把握と市政への活用 	

3. 區別計画

区づくりの将来目標と重視すべき視点

北区

区づくりの将来目標

自然と調和した、彩り豊かな地域の魅力あふれる
活力と交流のまち 北区

区づくりの重視すべき視点

- 多様な人材が力を発揮し、持続可能な地域を築く
- まちなかや中山間・周辺地域など、すべての地域の魅力を高め、活力ある未来を創る
- 人と人、地域と地域の交流を深める

中区

区づくりの将来目標

多様な世代がつながり、誰もが
暮らしやすさを実感できるまち 中区

区づくりの重視すべき視点

- 「自然」と「便利さ」が調和する住の魅力を高める
- 豊かな地域資源をいかし、地域への愛着と誇りを醸成する
- 多様な世代が交流し、地域の担い手が活躍する

南区

区づくりの将来目標

実りの大地に、世代を超えて未来を育む
つながるまち 南区

区づくりの重視すべき視点

- 地域が一体となって、防災力を高める
- 地域資源を輝かせ、わくわく感を創り出す
- 地域をつなげ、快適に暮らせるまちを実現する

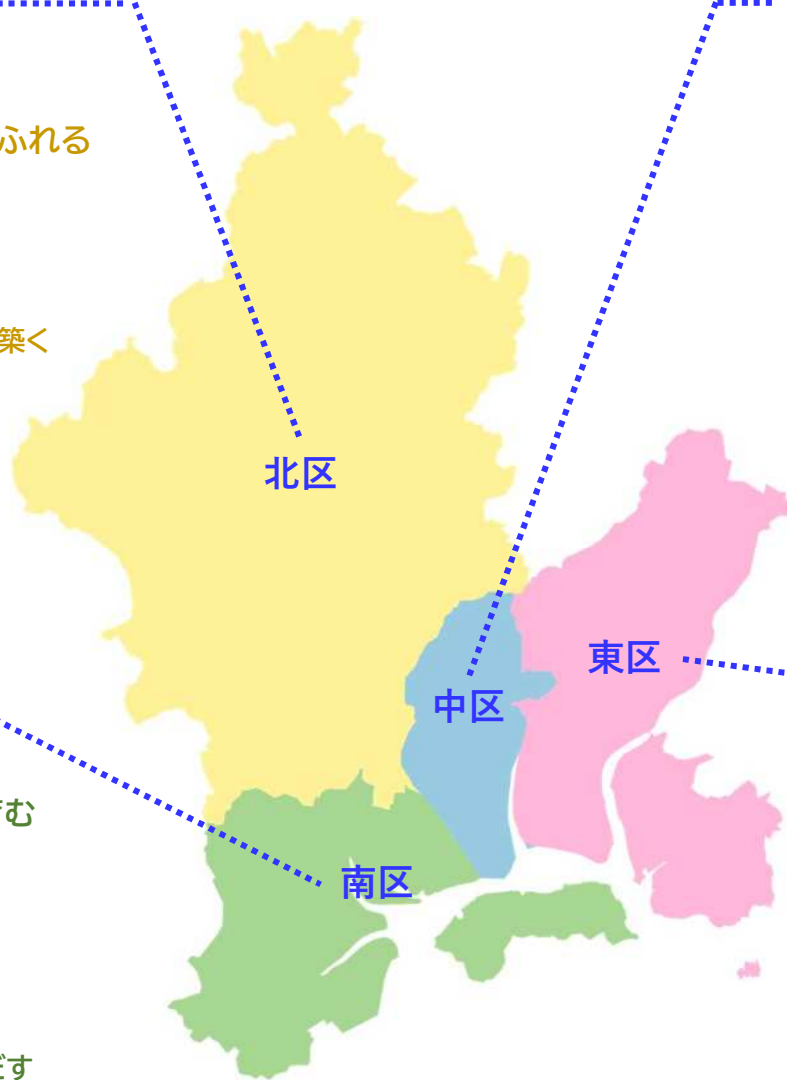
東区

区づくりの将来目標

歴史が息づき、愛着と誇りの持てる
いつまでも住みたいまち 東区

区づくりの重視すべき視点

- 特色ある歴史・伝統・文化をいかし、地域の魅力を高める
- 産業・農業を振興し、地域経済を活性化させる
- 自然と共生し、より快適で安全・安心な暮らしを実現する

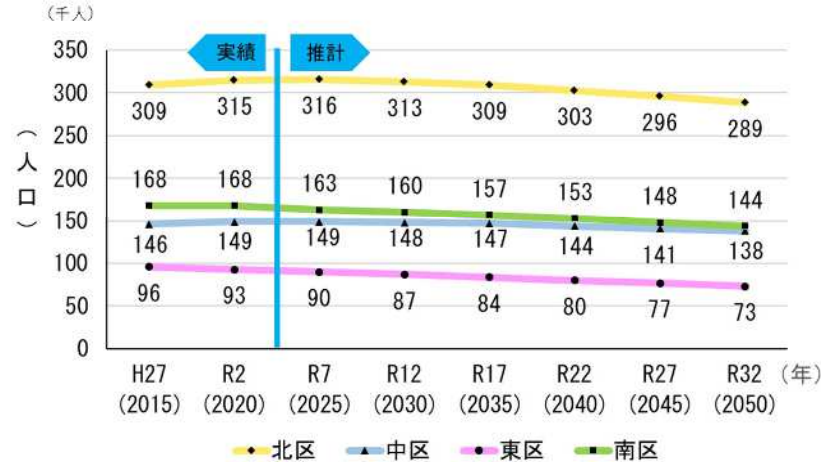


各区の人口の見通し

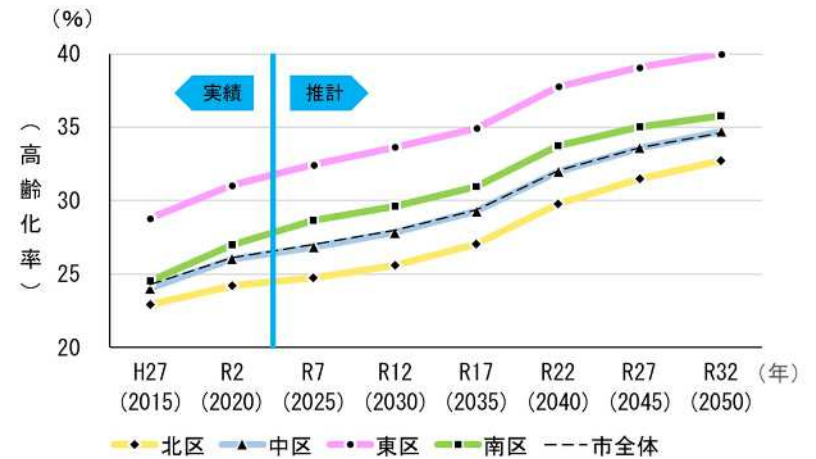
北区及び中区の人口は、令和7（2025）年までは増加する見込みとなっており、令和7（2025）年から令和12（2030）年にかけて減少に転じていく見通しです。東区の人口は、既に減少局面に転じており、南区の人口は、平成27（2015）年から令和2（2020）年にかけて微減となっており、以降、減少していく見通しです。

高齢化の一層の進行により、令和27（2045）年には、すべての区で高齢化率が30%を超える見通しです。

〇4区の人口推計



〇4区の高齢化率



(資料) 実績値：総務省「国勢調査」(2015年及び2020年は不詳補完値による。)

推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5年推計)」

〇4区の基礎データ

区分	面積 (km ²)	人口 (人)	平成27～令和2年人口増減率 (%)	年齢別割合			一般世帯数 (世帯)	1世帯当たり人員 (人)	世帯の類型	
				0～14歳 (%)	15～64歳 (%)	65歳以上 (%)			夫婦と子ども (%)	単独世帯 (%)
北区	450.70	314,523	1.6	12.7	62.5	24.7	154,998	1.97	21.1	49.9
中区	51.24	149,232	2.1	14.4	59.5	26.1	65,426	2.23	27.1	37.1
東区	160.53	93,108	-2.6	11.9	56.9	31.2	37,392	2.42	28.3	29.4
南区	127.48	167,828	-0.2	13.7	59.3	27.1	69,170	2.38	28.9	31.7
岡山市(全体)	789.95	724,691	0.7	13.2	60.4	26.4	326,986	2.16	24.8	41.1

(資料) 国土地理院「令和7年全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「令和2年国勢調査」

※各データの人口には外国人を含む。

北区

1 概況

<地勢・都市環境>

- ・北区は旭川以西の中央部から北西部に位置し、平成17、19年の合併による旧御津町、旧建部町地域を含み、区域の面積は約451km²と岡山市の約57%を占め、4区の中で最も広がっています。
- ・緑豊かな山林・丘陵地と清流旭川等に沿って開けた岡山平野からなり、中心部近郊には、半田山、京山、吉備の中山など古くから生活に密着してきた里山があります。
- ・都心部には、国、県、市の各種行政機関が集中するとともに、JR岡山駅及び表町周辺には銀行、百貨店、オフィスビル等の商業・業務機能が集積しています。
- ・JR岡山駅、岡山空港、山陽自動車道岡山インターチェンジ、吉備スマートインターチェンジなど広域交通網の拠点が立地し、広域的な交通アクセス性に優れています。
- ・土地利用状況では、区域の約6割を山林が占めており、田や畑なども含めると自然的土地利用の割合が約8割となっている一方、広大な区域の中に都心や市街地も有しており、多様性に富んだ地域を形成しています。

<人口・世帯>

- ・令和2年国勢調査では、人口は314,523人（市人口の43.4%）と、4区の中で最多となっていますが、御津地域や建部地域等の中山間・周辺地域の大半では減少傾向にあります。

- ・直近5年間の人口動態をみると、主に自然減の拡大により一部年次を除いてマイナスで推移しており、岡山県毎月流動人口調査での令和7年12月1日現在の人口は、312,125人となっています。
- ・高齢化率は、24.7%と市平均26.4%よりも若干低いものの、北部の中山間地域では、既に高齢化率が40%を超える地域があります。年少人口比率は、12.7%と4区の中で2番目に低くなっています。
- ・1世帯当たり人員は、1.97人と4区の中で最も少なく、単独世帯の割合は49.9%と4区の中で最も高くなっています。
- ・区民のうち外国人住民が占める割合は3.2%で、岡山市の外国人住民の約5割に当たる約9,400人が居住しています（令和7年11月末現在、住民基本台帳）。
- ・昼間人口が夜間人口を大きく上回り、4区の中で唯一流入超過となっています。



上空から見た北区の風景

<地域資源>

<p>歴史・伝統・文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化遺産の蓄積があり、文化財数は岡山市の約4分の3を占めています。 ・都心部には宇喜多家が築城した岡山のまちのルーツとなる岡山城や池田綱政が築庭した岡山後樂園があり、近年のインバウンド需要の高まりを受け、外国人入場者数が増加しています。 ・北西部には、全国屈指の巨大古墳である造山古墳をはじめ、吉備津神社、吉備津彦神社、高松城跡、撫川城跡、庭瀬城跡、犬養木堂の生家、足守の陣屋町や近水園など古代吉備以来の歴史・文化遺産が数多く存在します。また、御津・建部地域には河原邸、成就寺三重塔等の歴史・文化遺産があり、令和5年には、建部井堰が世界かんがい施設遺産に登録されました。 ・都心部では、吉備津彦の鬼退治の神話に登場する「温羅（うら）」を由来とする、「うらじゃ」が平成6年から開催されており、平成30年には、古代吉備の遺跡群を舞台とした『桃太郎伝説』の生まれたまち おかやま」が日本遺産に認定されました。 ・吉備津神社の宮内踊り、吉備津彦神社の御田植祭、御津地域の獅子舞フェスタ、建部地域のはっばね桜まつり、建部祭り、志呂神社御供等の地域の伝統行事やイベントが今に受け継がれています。 	<p>部地域のヨーグルト、旭川流域の鮎等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産物：烏城彫り、烏城紬、撫川うちわ等
<p>自然・景観</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川、笹ヶ瀬川、足守川、宇甘川など自然豊かな河川や、半田山、吉備の中山、吉備高原に連なる里地里山があり、都心部にも西川緑道公園、枝川緑道公園など水と緑をいかした公園が整備され、多くの人に親しまれています。 ・足守・津高・御津・建部地域などは市内有数のホタル生息地であり、地域住民による保護活動も活発に行われています。 ・オオタカやスイゲンゼニタナゴ、ナゴヤダルマガエル、サギソウ、セツブンソウなどの希少な野生生物が確認されており、各地域で保全活動が行われています。 	<p>公共施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都心部には、オリエント美術館、岡山県立美術館、岡山シンフォニーホール、岡山芸術創造劇場ハレノワ、岡山シティミュージアム等の文化・芸術施設や、岡山コンベンションセンター等の交流施設が集積しています。 ・都心部に近接して岡山県総合グラウンド、北長瀬未来ふれあい総合公園、半田山植物園があり、北西部には日応寺自然の森、北部には御津スポーツパーク、建部町総合スポーツセンターが整備されています。 ・岡山大学をはじめ、多くの高等教育機関が集積しており、学生の存在が地域に活力をもたらしています。 ・北西部には岡山空港があり、空港南産業団地や岡山リサーチパークが立地しています。北部には御津工業団地があります。 ・牧山地域には、市民農園として整備した牧山ラインガルテンがあります。 ・御津地域には、御津ふれあいプラザ・御津郷土歴史資料館、建部地域には、建部町文化センターや環境学習センター「めだかの学校」、豊かな自然をいかしたたけべの森公園やたけべ八幡温泉があります。
<p>特産品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農水産物：一宮・津高地域の白桃、マスカット、ピオーネ等のブドウ、足守地域の温室メロン、牧石地域の黄にら、青ねぎ、パクチー、御津地域の山の芋、建 	<p>主な市の出先機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北区役所、支所（御津、建部）、地域センター（一宮、津高、高松、吉備、足守）、土木農林分室 ・福祉事務所（北区中央、北区北）、保健センター（北区中央、北区北） ・公民館（岡西、北、一宮、津高、高松、吉備、足守、大元、京山、御南西、岡山中央、岡輝、御津、建部町）



造山古墳



サギソウ



白桃

区の概況図（北区）



- 凡例
- 歴史・伝統・文化等
 - 自然・景観等
 - 公共施設等
 - 市の出先機関（市庁舎等）
 - 市の出先機関（公民館）
 - その他



拡大図

2 現状と課題

<特色ある地域づくり>

- ・地域の魅力や特色をいかしたまちづくりを実現するためには、区民と行政が区づくりの目標や課題を共有し、協働して地域の活性化や地域課題への対応に取り組む必要があります。
- ・中山間・周辺地域をはじめとする各地域では、豊かな自然や多彩な農産物、貴重な歴史・文化遺産など、それぞれの個性をいかした地域づくりを進めています。
- ・まちなかでは歴史・文化、芸術の集積をいかした魅力の創出や、「おかやまアーツフェスティバル」など、身近な場所で様々な文化芸術に触れ、親しむことができる機会の提供を行っています。
- ・西川緑道公園等でのNPOや市民団体が主体となった取組が、まちなかの魅力と賑わい創出につながっています。
- ・各地域において、多様な主体の力をいかしながら、地域の文化財、伝統行事や貴重な自然、文化・スポーツ施設などの地域資源を活用した地域の活性化を進めるとともに、特にこどもの地域への愛着と誇りを醸成していく必要があります。
- ・北区の魅力を掘り起こし発信するため、まちづくりアンバサダーとの協働によるイベントの実施や、地域の歴史・文化の由来等を紹介する看板(岡山歴史のまちしるべ)の設置、Instagramの活用等を行っており、引き続き積極的な情報発信に取り組む必要があります。



区まちづくり独自企画事業
(モバイルキーワードラリー)

<コミュニティ>

- ・地域活動の中心となる町内会への加入率は減少し続けており、4区の中で最

も低くなっています。

- ・学生や単身者が多く、1世帯当たりの人員数が4区の中で最も少なくなっています。
- ・外国人人口の割合が4区の中で最も高く、外国人市民と共生できる地域づくりを進めていく必要があります。
- ・中山間地域では高齢化率が40%を超える地域も存在し、固有の歴史・伝統・文化の継承を含め、地域コミュニティの後継者を育成していく必要があります。

<健康づくり>

- ・健康市民おかやま21の推進体制をいかして、公民館等を拠点として地域の実情にあわせた健康づくりを行っています。更なる活動の充実のため、若い世代、働き盛り世代に向けた健康づくり活動を強化し、地域、企業、学校園、各種団体等との連携を深めていく必要があります。

<防災・防犯>

- ・旭川、笹ヶ瀬川流域で甚大な浸水被害をもたらした平成30年7月豪雨をはじめ、近年、頻発している集中豪雨等を受け、令和5年には今保ポンプ場、白石ポンプ場の整備を実施するなどハード面からの対策に加え、ソフト面の対策も推進しています。また、丘陵部では今後も土石流やがけ崩れ災害が発生するおそれがあります。都心部では雨水排水の役割も担う下水道施設の老朽化が進んでいます。今後も国、県と連携しながら災害に強い地域づくりを進めていく必要があります。
- ・防災意識の高揚を図るため、ハザードマップの全戸配布や出前講座の実施などを行っています。



今保ポンプ場

- ・まちなかへの通勤・通学者が多いことから、地震等で交通機関が不通になった際の帰宅困難者への対応について、大規模集客施設等と協定を締結しています。
- ・用水路の危険箇所については、計画的に転落防止柵の設置など安全対策を実施してきましたが、依然として転落事故は発生していることから引き続き取り組んでいく必要があります。
- ・区民千人当たりの刑法犯認知件数は、4区で最も多くなっており、警察署と合同で防犯啓発活動を実施するなど、地域の防犯力の向上に取り組んでいます。
- ・各地域では、安全・安心ネットワーク、防犯ボランティア団体等により、活発な防災・防犯活動が行われていますが、多くの団体で構成員の高齢化、担い手不足が課題となっています。また、自主防災組織数は人口、世帯数から見ると十分ではなく、更なる結成を促す必要があります。
- ・今後より一層地域における防災・防犯活動への支援や参加促進、事業者との連携強化等により、防災・減災、防犯力の高い地域づくりを進めていく必要があります。

<産業等>

- ・産業別の付加価値額は、第3次産業の割合が約8割と4区の中で最も高く、その中でも、卸売業・小売業の付加価値額が最も高くなっています。
- ・多彩な農産物が生産されている特性をいかし、付加価値の高い高収益な農業の実現をめざしていくことが求められています。また、御津・建部地域等の中山間・周辺地域をはじめとして、農業の後継者不足が問題となっており、農家戸数は減少傾向にあることから、新たな担い手の育成や農地の集積・集

約化、鳥獣被害対策等に取り組む必要があります。

- ・岡山芸術創造劇場ハレノワのオープンや、ハレまち通り、岡山駅前広場の整備、活発な民間再開発事業によりまちなかの人の流れは大きく変わってきており、商店街の更なる魅力向上・活性化を促進するため主体的な取組を後押ししていく必要があります。
- ・高速インターチェンジや産業拠点の周辺など、産業利用の適地への企業の立地を進める必要があります。

<交通>

- ・各地域からまちなかへの交通では、バス路線の再編、利用環境の改善等を実施しています。引き続き利便性の高い公共交通や渋滞のない自動車交通に向けた取組が必要となっています。
- ・まちなかでは、ハレまち通りの整備が完了するなど、歩いて楽しい都市空間づくりが進められています。引き続き、路面電車の岡山駅前広場への乗り入れなどの公共交通の充実や歩行者にやさしい空間づくり、自転車利用環境の向上により、賑わいをつなぐ回遊性の向上を図る必要があります。
- ・現在、御津・建部地域、足守地域、馬屋上・野谷地区及び牧山地区で生活交通が運行されています。今後の高齢化や人口減少の進行により、その他の地域においても自動車の運転が困難な高齢者等の交通弱者の増加や公共交通の衰退が懸念され、買い物や通院等の日常生活に必要な移動手段を確保していく必要があります。



ハレまち通り

3 区づくりの将来目標

自然と調和した、彩り豊かな地域の魅力あふれる 活力と交流のまち 北区

北部の山間部や清流旭川をはじめとする豊かな自然と調和しながら、それぞれの地域の歴史・伝統・文化など、多様で豊かな資源を最大限にいかして、多くの人々が交流する魅力と活気あふれるまちづくりを進めます。

また、区民一人ひとりがつながりを深め、温かく支え合いながら、いきいきと活躍できる北区をめざします。

4 区づくりの重視すべき視点

視点 1

多様な人材が力を発揮し、持続可能な地域を築く

- ・区民、NPO、事業者など、多様な力をいかし、誰もが地域の主役としていきいきと活躍できるまちづくりを進めます。
- ・地域のつながる力を高め、互いに支え合うことにより、安心して安全に暮らせるまちづくりを進めます。

視点 2

まちなかや中山間・周辺地域など、すべての地域の魅力を高め、活力ある未来を創る

- ・都心、市街地、田園、中山間地域など、各地域のそれぞれの特色をいかし、多様性に富んだ魅力を最大限に引き出し、農業の振興、企業立地の推進、賑わいの創出など、活気あふれるまちづくりを進めます。

視点 3

人と人、地域と地域の交流を深める

- ・公共交通の利便性向上や道路ネットワークの充実により、地域と地域を結びつけ、交流の促進につなげます。
- ・歴史・伝統・文化、自然、特産品など、地域資源を活用した取組や学ぶ機会の充実によって、区民の地域への愛着と誇りを育むとともに、積極的に発信することで、人と人、地域と地域がつながるまちづくりを進めます。

5 施策展開の方向性

方向性1 持続可能で活力のある地域づくり

① 多様な力をいかした地域づくり

- ・地域団体等の活動を支援するとともに、NPO、事業者、大学や学生等の多様な主体との連携を進め、地域課題の解決や地域資源を活用した魅力ある地域づくりを進めます。さらに中山間・周辺地域においては、地域の未来づくり推進事業や地域おこし協力隊事業などにより、地域の活性化促進にも取り組みます。
- ・区づくり推進事業を促進し、地域のアイデアをいかした取組や、地域住民の主体的な交流の促進や課題解決に向けた活動を支援し、地域への愛着を醸成します。
- ・区民の協力を得て、多様なニーズを取り入れながら、区役所が主体となって身近な地域課題に取り組む区まちづくり独自企画事業を実施し、地域の特色や魅力をいかしたまちづくりを推進します。
- ・単身者、学生、マンション居住者等の地域活動への参加促進や、若者の地域への関心を高める取組の実施等により、地域の新たな担い手づくりを進めます。
- ・年齢や国籍等にかかわらず、誰もが参加しやすい地域づくりを進めるとともに、高齢者や子どもを地域で見守り、支え合う活動を促進します。



区づくり推進事業

② 地域における健康づくりの推進

- ・各地域での健康市民おかやま21の推進体制の更なる充実を図り、地域の実情や健康課題にあわせ、公民館等での健康づくり講座の実施や、市民の主体的な健康づくりに向けた活動を支援します。
- ・若い世代、働き盛り世代に向けた健康づくり活動を強化するため、市民や地域団体、企業、学校園等との連携により健康づくりに関する啓発活動を進めます。

- ・区づくり推進事業のイベントにおける健康測定や健康相談、高齢者と若い世代の交流の場づくり、マラソンなどのスポーツを通じた健康増進など、地域が主体的に行う健康づくりの取組を支援します。

③ 新庁舎での窓口サービスの向上

- ・新庁舎の市民窓口サービスフロアにおいて、待ち時間の短縮、書かない窓口、わかりやすい案内表示など、市民が利用しやすい環境づくりを行います。

方向性2 防災・減災、防犯力の高い地域づくり

① 防災・減災対策の推進

- ・国、県による旭川、笹ヶ瀬川、足守川等の改修等を促進するとともに、都心部における下水道施設の計画的な改築・更新等による雨水排水機能の強化、津島地区、横井地区をはじめ、市街地等での浸水対策等を進めます。また、土砂災害については、県による警戒区域等の指定や対策工事を促進します。
- ・町内会への防災備蓄土等の配布や、事前に大雨が予想される場合の河川からの取水量の早期調整、用水路の事前水位調整等、地域間の連携によるソフト対策に取り組み、浸水被害の軽減・防止を図ります。
- ・土砂災害や浸水被害等に迅速・的確に対応し、被害を最小限にとどめるため、ハザードマップの作成や防災学習会の実施等により、日頃からの危機意識を醸成するとともに、避難方法等の一層の周知を図ります。
- ・自主防災組織の結成を促進するとともに、地域防災リーダーの育成、防災訓練の支援、避難行動要支援者の個別避難計画の作成支援等を通じて、自主防災組織への支援強化を図り、組織の活性化を推進します。
- ・通勤・通学者の多いまちなかでは、大規模集客施設等や交通事業者との連携を密にし、帰宅困難者への対応をはじめ、更なる防災対策の充実を図ります。
- ・用水路等の危険箇所に対する安全対策を図るため、引き続き転落防止柵等を設置するハード対策を行うとともに、啓発ポスターの掲示やチラシの配布等



北区総合防災訓練

のソフト対策も実施していきます。

② 地域の防犯力の強化

- ・安全・安心な地域づくりを進めるため、安全・安心ネットワーク等による防犯パトロール等の自主的な地域の見回り活動を支援するとともに、防犯ボランティア団体への防犯講座の実施等により地域防犯活動の活性化を図ります。
- ・地域における防犯灯や防犯カメラの設置等を支援するとともに、警察や防犯団体等との連携を強化し、街頭犯罪や少年非行を防止し、犯罪のない社会づくりを進めます。

方向性3 農業の振興と企業立地の推進

① 農業の振興

- ・特産である白桃やブドウの果樹栽培などでの新規就農者の確保や地域特性をいかした競争力の強化など、農業を継続できる環境づくりに取り組みます。
- ・農地・農業用施設の保全活動等の地域の共同活動を促進することにより、コミュニティの再生・強化を図ります。また、地域内外の人材の経験をいかしながら、地域資源を活用した6次産業化等により、地域の活性化を図ります。
- ・緑豊かな自然の中で野菜や花の栽培ができる牧山クラインガルテンの利用促進を行い、食と農業に対する理解を深めるとともに、都市住民と農村住民の交流促進を図ります。
- ・鳥獣被害対策として、農地の防護柵や捕獲檻の設置、捕獲駆除等への支援を継続していきます。



牧山クラインガルテン

② 企業立地の推進

- ・高速インターチェンジや産業拠点の周辺などの産業利用の適地において、地

域未来投資促進法の活用や市街化調整区域の開発許可制度の緩和により、工場や物流施設等の立地を推進します。

方向性4 まちなかの魅力と賑わいの創出

- ・まちなかの賑わい創出に向けて、西川緑道公園、下石井公園、旭川の水辺などの都市空間の利活用、また、今後の烏城公園石山地区の整備、岡山城西の丸活用検討、新庁舎前広場と大供公園の一体的な整備など、魅力と賑わいの拠点づくりを進めます。
- ・ハレまち通りの歩道活用など、歩いて楽しい歩行者優先の道路空間づくりを進め、まちなかの回遊性の向上を図ります。
- ・商店街等の魅力向上・活性化に向け、賑わいづくり等への支援とあわせて、空き店舗対策や新たな担い手の創出・育成等を支援します。
- ・「うらじゃ」に代表されるおかやま桃太郎まつり等の文化や食のイベントを行政と民間が一体となって進めます。
- ・まちなかや北長瀬駅周辺地区において街路樹や都市公園樹木のボリュームアップなどを進めるとともに、この取組を広げていくことで風格と魅力ある都市空間づくりを図ります。
- ・まちなかの美化活動を地域住民との協働により進めるとともに、ポイ捨て禁止、路上喫煙者への指導等に取り組みます。



うらじゃ

方向性5 歴史・文化など多様な地域資源の活用・発信

- ・美術館、博物館、図書館等の豊富な文化・学習施設について、利便性や魅力を高めるとともに、県等と連携して様々な学習・体験の機会を設けることにより、文化・芸術・生涯学習活動やそれらを通じた交流を活性化します。
- ・地域住民による地域の歴史・文化遺産の保存・活用等の取組を支援すると

もに、こどもの頃から地域の歴史・伝統・文化に触れ親しむ機会を提供することにより、地域への愛着と誇りを醸成します。

- ・岡山城、岡山後楽園や吉備路等の岡山を代表する地域資源について、県や関係団体等との連携・協働により、その魅力を高めて発信します。
- ・豊富な観光資源をいかした市内外との交流を進め、地域の観光ボランティア等との連携により訪れる人を温かくおもてなしします。
- ・地域との連携により、多様で豊かな自然環境と触れ合うことのできる環境づくりや、身近な自然環境を保全する担い手づくり等を進めます。
- ・歴史・伝統・文化や、美しい自然、豊富な特産品など、各地域の彩り豊かな魅力についてインスタグラム等を活用し積極的に発信します。



建部井堰

方向性6 地域特性に応じた交通利便性の向上

① 公共交通等の利便性向上

- ・各地域とまちなかをつなぐ公共交通の利便性向上を図るとともに、周辺を含む沿線地域の活性化や観光振興を図ることを目的に桃太郎線LRT化の取組を推進します。
- ・一宮方面、津高方面、庭瀬方面において、駅や身近な生活関連施設への路線延伸などバス路線の再編に取り組むとともに、乗り継ぎ環境の整備を進めます。
- ・まちなかの回遊性の向上に向け、路面電車の岡山駅前広場への乗り入れや延



岡山駅前広場イメージ図



乗合タクシー

伸、環状化等を進めます。

- ・まちなかでの自転車通行空間の整備や駐輪場整備等の放置自転車対策、電動アシスト付き自転車の導入などシェアサイクル「ももちやり」のリニューアルによる利便性向上・利用促進に取り組みます。

② 生活交通の確保

- ・生活交通が運行されている御津・建部地域、足守地域、馬屋上・野谷地区及び牧山地区において、利用促進と運行サービスの改善に取り組みます。
- ・その他の公共交通不便地域においても、地域住民及び交通事業者との連携により、買い物や通院等の日常生活に必要な移動手段を確保するための生活交通の導入を進めます。

③ 道路ネットワークの充実・強化

- ・都心部への自動車流入の抑制や周辺道路の渋滞緩和を図るため、都市計画道路下中野平井線（中環状線）、都市計画道路米倉津島線（中環状線）等の幹線道路の整備を進めます。
- ・都心部への交通アクセス性の向上や御津、建部など周辺の地域における円滑な移動を確保するため、一般県道岡山倉敷線や主要地方道岡山吉井線、都市計画道路大元二日市町線、主要地方道高梁御津線等の幹線道路の整備を進めます。



主要地方道岡山吉井線
(新大原橋拡幅)

中区

1 概況

<地勢・都市環境>

- ・中区は旭川の東、市のほぼ中央に位置し、面積は約5.1㎢と市全体に占める割合は約6%で、4区の中で最小となっています。
- ・北には龍ノ口山、中央には操山の丘陵地があり、西には旭川、東にはその放水路である百間川が流れ、南部には児島湾に面した干拓による豊かな平野が広がっています。
- ・区域の約半分が都市的土地利用されており、宅地の占める割合が3割を超え、4区の中で最も高くなっています。
- ・都心部から連続した市街地が広がっており、職と住が近接したベッドタウンとしての性格を有しています。
- ・市街地は大きく分けて、旧城下町の一部として古くから発展してきた東山・操山より西の旭川沿いの地域、操山より北で国道250号及び山陽本線に沿って東西に連続する地域、操山より南の主要地方道岡山牛窓線に沿って住宅開発が進められてきた地域に分けられます。
- ・南部には米作を中心とした優良農地が広がり、農業生産の重要な役割を担っています。
- ・岡山港（高島地区）（通称：新岡山港）周辺や広域幹線道路沿線には、工業・物流機能が集積しています。

<人口・世帯>

- ・令和2年国勢調査では、人口は149,232人で市人口の20.6%を占めています。
- ・直近5年間の人口動態をみると、自然減の拡大により令和4年からマイナスで推移しており、岡山県毎月流動人口調査での令和7年12月1日現在の人口は、146,689人となっています。

- ・高齢化率は、26.1%と市平均の26.4%よりも若干低く、年少人口比率は、14.4%と市平均の13.2%を上回り、4区の中で最も高くなっています。
- ・1世帯当たりの人員は、2.23人であり、単独世帯の割合は4区の中で2番目に高く37.1%となっています。
- ・区民のうち外国人住民が占める割合は1.9%で、約2,800人が居住しています（令和7年11月末現在、住民基本台帳）。
- ・昼間人口が夜間人口を下回っており、その差がマイナス方向に拡大傾向となっています。市内他区での従業・通学の割合が4区の中で最も高くなっています。



上空から見た中区の風景

<地域資源>

<p>歴史・伝 統・文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・龍ノ口山の南麓には、この地域が備前地域の中心地であったことを示す賞田廃寺、幡多廃寺等の古代寺院跡や律令時代の備前国庁跡があり、操山周辺には金蔵山古墳等の古墳群や、曹源寺、安住院等の歴史・文化遺産が存在します。 ・操山には、宇喜多直家の生涯最大の合戦とされる「明禅寺合戦」の舞台となった明禅寺城跡が、龍ノ口山には龍ノ口城跡が残されています。 ・津田永忠による倉田新田・沖新田開発、倉安川、百間川開削等の大規模な農業・土木遺産のほか、旭川のケレップ水制群等の土木遺産が存在します。令和元年には、約50年に及んだ百間川の改築が完了するとともに、「倉安川・百間川かんがい排水施設群」が世界かんがい施設遺産に登録されました。 ・岡山藩の医学館に始まり、旧制第六高等学校や岡山師範学校など、数多くの学校を有してきました。 ・世界初の点字ブロックの設置、児童福祉の父と呼ばれる石井十次や岡山博愛会のアリス・ペティー・アダムスが活動するなど、福祉分野において先駆的な取組がなされてきた伝統があります。
<p>自然・景 観</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・龍ノ口山と操山は市街地に隣接する里山として、景観、生物多様性の面から貴重な緑地となっており、市民に憩いの空間を提供しています。 ・旭川、百間川のほか、倉安川、祇園用水等の水路群が豊かな水辺空間を形成しており、水路の中にはアユモドキ（天然記念物）が生息する地域があります。 ・高島・旭竜地域は都心部に近い地域でありながら、市内でも有数のホテルの生息地となっています。 ・旭川左岸の蓬萊橋から相生橋までの約1キロにわたり美しい桜並木が続く「旭川さくらみち」では、毎年「岡山さくらカーニバル」が開催され、多くの花見客で賑わっています。

<p>特産品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物：沢田の柿、酒米最高品種の雄町米等 ・その他：高島のお飾り、全国名水百選の一つ雄町の冷泉、日本酒や地ビールなどの酒類、和菓子
<p>公共施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・操山公園里山センターは、市民の自然体験活動の拠点となっています。 ・岡山の海の玄関である岡山港（高島地区）（通称：新岡山港）は、岡山と小豆島とを結ぶフェリーの発着口として利用されています。 ・大学が2校、高等学校が6校あり、文教地区としての機能を担っています。 ・スポーツ施設として、百間川緑地や奥市公園があります。 ・「旭川・百間川ランニングコース」は、豊かな水辺の自然を楽しみながらランニングやウォーキングを楽しめるコースで、毎年1月には、県下の市区町村対抗の「晴れの国岡山」駅伝競走大会が開催されています。
<p>主な市の 出先機関</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中区役所、富山地域センター ・中区福祉事務所、中区保健センター ・公民館（操山、東、操南、富山、高島、東山）



曹源寺



点字ブロック発祥の地



岡山さくらカーニバル

区の概況図（中区）



凡例	
●	歴史・伝統・文化等
●	自然・景観等
●	公共施設等
●	市の出先機関（市庁舎等）
●	市の出先機関（公民館）
●	その他



2 現状と課題

<交通>

- ・都心部に向かう旭川等の橋近辺や主要地方道岡山牛窓線など片側1車線の一部幹線道路等では、通勤時の慢性的な渋滞やそれに伴うバスの遅れ等も生じており、対策の一環として、令和6年度に市道錦町古京町線の拡幅工事が完工しています。
- ・交通渋滞の解消、主要な公益的施設への交通アクセス性の向上が求められており、地域の活力や日々の暮らしを支えるため、引き続き、外環状線・中環状線等の幹線道路整備を推進する必要があります。
- ・利便性の高い公共交通を確保するため、公設民営方式を導入した支線バスとして「高島・旭川荘線」や「高島・備前原線」、「東山・操南台団地線」の運行を開始しています。引き続き、利用促進や運行サービスの改善に取り組む必要があります。
- ・自転車通行空間ネットワークについて、路線を選定し、一部路線の事業に着手しており、引き続き、市民ニーズの高い自転車利用環境の向上を図る必要があります。



支線バスFLAt

<自然・生活環境>

- ・操山、龍ノ口山、アユモドキが生息する祇園用水等の水路群、ホタルの生息地である高島・旭竜地域をはじめ、多様で豊かな水と緑の空間は、市民共有の財産です。引き続き、認定地区を増やしてきた「身近な生きものの里」事業等を通じて、区民とともに地域の生態系や自然環境を守り、次世代へ継承

していく必要があります。

- ・中区管内の里山周辺では、鳥獣被害が緩やかに増加しており、地域住民と協力しながら鳥獣被害対策に取り組む必要があります。
- ・老朽化が進行する高島市営住宅では、入居者の安全・安心や住環境の面での課題があり、再整備を行う必要があります。
- ・平成10年に先行取得した図書館整備用地（中区高屋）が未活用となっています。



アユモドキ

<特色ある地域づくり>

- ・地域ブランドとして操山北麓の沢田地域では沢田の柿、龍ノ口地域では酒米として雄町米が生産されており、雄町米を使用した日本酒のPR活動が県内外で行われています。
- ・区内を流れる旭川、百間川には、区民が身近に水辺で憩えるよう、親水公園やボートコース等の施設が整備されています。
- ・操山周辺には、曹源寺等の歴史・文化遺産も多く存在し、これらを歩いて巡ることのできる遊歩道が整備されています。
- ・地域の歴史・文化の由来等を紹介する看板（岡山歴史のまちしるべ）を設置し、地域の歴史・文化を学び、楽しむ機会を増やしてきました。引き続き、地域の歴史・文化遺産や地域特産品等の積極的な活用が必要です。
- ・中区では、各地域におけるイベントや活動、魅力的な地域資源、道路・河川等の整備状況等をインスタグラムで情報発信しており、引き続き、積極的な発信等を通じて、区民の地域への愛着や誇りの醸成へとつなげる必要があります。

<コミュニティ・健康づくり>

- ・少子高齢化や価値観の多様化に伴い、町内会の加入率は低下傾向にあります。高度経済成長期に開発された団地等、近年高齢化が急速に進んだ地域では、地域団体の構成員の高齢化が進んでおり、新たな担い手の育成等により、持続可能な地域づくりを進めていく必要があります。
- ・中区では、地域住民による助け合いの仕組みづくりや、中高生ボランティアの地域活動への参加など多様な担い手が参画する主体的な課題解決のための取組が進んでいます。
- ・中区役所と区内にある大学との間で包括的な連携協定を締結しており、地域福祉、地域の活性化のための人材育成等について相互協力を進め、高齢者の健康チェックやこどもの居場所へのボランティア派遣等を行っています。
- ・引き続き、暮らしやすい地域づくりに向けて、中高生等の若者をはじめとした住民の地域活動への積極的な参加を促進するとともに、地域団体、NPO、企業、大学など、多様な主体の力をいかし、協働による取組を拡大していく必要があります。
- ・健康市民おかやま21の推進体制により、特に小・中学校と連携して喫煙防止や食育等の啓発活動を進めており、今後は、こどもの保護者など幅広い世代に向けた健康づくりを促進する必要があります。



選挙啓発ワークショップ

<防災・防犯>

- ・南海トラフ巨大地震等による津波の発生時には、操山以南の海拔ゼロメートル地帯を中心に多くの被害が発生するおそれがあります。いつ起こるかわからない津波災害や浸水被害等に迅速・的確に対応し、被害を最小限にとどめるためには、日頃から住民の危機意識を醸成し、防災意識を高め、災害に強い地域づくりを進める必要があります。
- ・台風や頻発する集中豪雨のため、市街地等で内水はん濫による浸水被害が発生しており、引き続き、倉安川の改修や水位の事前調整など、ハード・ソフト両面から浸水対策を進める必要があります。
- ・地域の防犯対策として、防犯灯や防犯カメラの新設や更新に対する補助を実施しています。
- ・通学時の見守りや地域パトロールなど、地域の防犯に重要な役割を果たしている防犯ボランティア団体では、多くの団体で高齢化、担い手不足が課題となっており、地域防犯活動の活性化に向けた取組を進める必要があります。
- ・用水路の危険箇所については、計画的に転落防止柵の設置など安全対策を実施してきましたが、依然として転落事故は発生していることから、引き続き取り組んでいく必要があります。



護岸整備後の倉安川

3 区づくりの将来目標

多様な世代がつながり、誰もが暮らしやすさを実感できるまち 中区

旭川や百間川、操山、龍ノ口山に代表される豊かな水や緑に囲まれ、都心部から連続した市街地が広がる中区の特性をいかし、誰もが暮らしやすさを実感できるまちづくりを進めます。また、地域での支え合いや多様な世代間の交流が活発に行われる地域づくりを進めるとともに、豊かな地域資源の積極的な活用・発信により、区民が地域に愛着と誇りを持ち、住み続けたいと思える中区をめざします。

4 区づくりの重視すべき視点

視点 1

「自然」と「便利さ」が調和する住の魅力を高める

- ・都心部へのアクセス性に優れ、職住近接を可能とする利便性の高い住環境と豊かな自然環境が調和した中区の特性をいかしつつ、交通利便性の向上など、生活環境の充実等をさらに図ることにより、誰もが快適に暮らしやすいまちづくりを進めます。

視点 2

豊かな地域資源をいかし、地域への愛着と誇りを醸成する

- ・暮らしに憩いと潤いをもたらす豊かな水と緑の環境を区民と協力しながら守り、次世代へ継承していきます。
- ・各地域に息づく歴史・文化遺産や特産品等の地域資源を活用、発信していくことにより、区民の地域への愛着と誇りを醸成します。

視点 3

多様な世代が交流し、地域の担い手が活躍する

- ・地域団体、NPO、企業、大学等の多様な主体がつながり、中高生等の若者を巻き込みながら、様々な世代が活発に交流する、持続可能なまちづくりを進めます。
- ・地域の防災・防犯力を高め、自助・共助の取組を進めることにより、災害に強く、犯罪の少ない安全・安心なまちづくりを進めます。
- ・地域での健康づくり活動や見守り、支え合いにより、誰もが住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまちづくりを進めます。

5 施策展開の方向性

方向性1 交通利便性の向上

- 交通渋滞の解消、都心部への交通アクセス性の向上や区内の各地域間の円滑な移動を確保するため、主要地方道岡山赤穂線（外環状線）、都市計画道路下中野平井線（中環状線）等の幹線道路の整備を進めます。
- 公共交通の利便性向上を図るため、沖元・平井方面において、バス路線の再編に取り組むとともに、乗り継ぎ環境の整備を進めます。
- 地域住民及び交通事業者との連携により、日常生活に必要な移動手段を確保するための生活交通の導入について検討します。
- 自転車利用環境の改善を図るため、自転車通行空間等の整備を進めます。



都市計画道路下中野平井線完成イメージ

方向性2 豊かな自然環境の保全と生活環境の整備

- 操山公園里山センターでの自然保護に関する活動・交流の場の提供や、センターボランティアとの協働による自然観察会・講座等の開催を通じて、自然と人との関わり方や里山を守り育てるための情報提供、意識啓発を図ります。
- アユモドキやホタルなど、地域の身近な野生生物をシンボルにした市民主体の自然保護活動への支援やエコボランティアの育成等を通じて、地域の自然環境保護に取り組む担い手づくりを推進します。
- 有害鳥獣による農作物被害を防止するため、実態調査の実施、関係団体や地域との協働による啓発、防護、捕獲等の活動を通じて、有害鳥獣に強い地域づくりを推進します。

- 高島市営住宅の建替えにあたり、入居者の安全・安心や住環境の改善を図るとともに、民間活力を導入した余剰地の活用により、入居者及び周辺住民の居住性や生活利便性の向上をめざします。

方向性3 地域資源の活用と発信

- 雄町米を使用した日本酒や、沢田の柿、和菓子などの地域特産物について、引き続き、県内外でPR活動を行うことにより、岡山の誇れるブランドとして守り育て、次世代へつなげます。
- 旭川、百間川沿いの水辺空間、操山などの里山、曹源寺をはじめとする歴史・文化遺産をウォーキングコースとして活用するなどにより、地域の魅力の再発見や市民の健康づくりにつなげます。
- 地域の歴史・文化遺産や地域特産物を活用した区まちづくり独自企画事業の実施や区の魅力を積極的に伝えることにより、地域の活力を高め、地域への愛着と誇りを醸成します。



区まちづくり独自企画事業

方向性4 多世代の交流・協働による地域・健康づくり

- 地域の様々な行事等の交流の場を通じて、住民同士の交流が促進され、いざという時に地域で支え合えるよう、地域の結びつきを支援します。
- 地域活動の担い手を育成するため、こどもから大人までが参加しやすいイベントづくりやSNSを通じた様々な情報発信により、若年層の地域活動への

参加を促進します。

- ・区づくり推進事業等を活用し、地域住民の主体的な交流・活動を支援するとともに、公民館と連携した地域活動やボランティア活動を推進します。
- ・また、環境美化への協力や地域イベントへの協賛等の企業参加や区内の大学や高校との連携を進めます。
- ・大学・短大の看護や教育等の専門性を区民の健康づくり、認知症予防や人材育成につなげるとともに、学生の地域活動への参加を促進し、多世代の交流等による地域活性化を図ります。
- ・健康づくりの啓発について学校との連携を進め、次代を担うこどもだけでなく、その保護者など幅広い世代に対する啓発にも取り組みます。



区づくり推進事業

方向性5 地域との連携による防災・防犯力の向上

① 地域防災力の向上

- ・南海トラフ巨大地震や集中豪雨等の災害に備えるため、自主防災組織の結成や育成を促すとともに、町内会や自主防災組織が実施する防災訓練等を支援し、地域防災力の向上を図ります。
- ・要配慮者への支援体制を充実させるため、地域と連携して、避難行動要支援者の個別避難計画の作成等を支援します。
- ・災害時に備え、食料や資機材を分散備蓄するとともに、災害時の避難所運営



自主防災組織による防災訓練

の在り方について、地域や学校等と検討を進めます。

- ・津波災害や浸水被害等に迅速・的確に対応し、被害を最小限にとどめるため、ハザードマップの普及や出前講座の実施等により、日頃からの危機意識を醸成するとともに、避難方法等の一層の周知を図ります。
 - ・用水路等の危険箇所に対する安全対策を図るため、引き続き転落防止柵等を設置するハード対策を行うとともに、啓発ポスターの掲示やチラシの配布等のソフト対策も実施していきます。
- ### ② 津波・浸水対策
- ・津波や大雨による浸水被害を軽減するため、国、県による旭川の護岸整備や沿岸部の津波・高潮対策を促進するとともに、倉安川の護岸整備や河床掘削等の河川改修、排水機場の整備・更新、用排水路の整備・改良等のハード整備を進めます。
 - ・町内会への防災備蓄土、土のう袋の配布を行うとともに、事前に大雨が予想される場合には、地域の水利権者等の協力のもとで用水路の事前水位調整を行うなど、ソフト対策を推進します。

③ 地域防犯

- ・防犯ボランティア団体に対する情報提供や研修等を実施するとともに、区民への防犯活動の紹介などを通じて、地域防犯活動の活性化を図ります。
- ・警察や防犯団体と連携した啓発活動の実施など、関係団体との連携を強化するとともに、地域における防犯灯や、防犯カメラの設置等を支援することにより、街頭犯罪や少年非行を防止し、犯罪のない社会づくりを進めます。

東区

1 概況

<地勢・都市環境>

- 東区は市の南東部に位置し、平成19年の合併による旧瀬戸町地域を含み、区域の面積は約161㎢で岡山市の約20%を占めています。
- 一級河川の吉井川が区域を貫流し、中央には芥子山があり、南は児島湾と瀬戸内海に面し、沖合には市内唯一の有人離島である犬島があります。
- 土地利用状況では、山林や田、畑などの自然的土地利用の割合が約8割を占めています。
- 吉井川は、散策やスポーツ等の身近な憩いの場として親しまれています。また、吉井川、百間川の河口一帯には、干拓による広大で豊かな農地が広がり、良好な自然景観を形成しています。
- 西大寺地域は、東備地域の中心地であり、北前船や高瀬舟が寄港する吉井川河口の港町として、また、西大寺観音院の門前町として発展してきた経緯から、行政・商業機能等が集積しています。
- 主要地方道岡山牛窓線沿線や上道地域では市街化が進展するとともに、臨海部、新産業ゾーン、瀬戸地域、上道地域には工場が集積し、岡山市の製造業の中核を担っています。



吉井川



新産業ゾーン

- 瀬戸地域は、山陽自動車道へのアクセスが良好なことなどから、数多くの企業が進出するとともに、県南都市圏の近郊住宅地としても発展してきています。

<人口・世帯>

- 令和2年国勢調査では、人口は93,108人（市人口の12.8%）と、4区の中で最少となっています。
- 直近5年間の人口動態をみると、一部年次を除いて社会減と自然減の状況が続いており、岡山県毎月流動人口調査での令和7年12月1日現在の人口は、88,737人となっています。
- 高齢化率は、31.2%と4区の中で最も高くなっています。一方、生産年齢人口の割合は56.9%、年少人口比率は11.9%と、いずれも4区の中で最も低くなっています。
- 1世帯当たりの人員は、2.42人と4区の中で最も多く、単独世帯の割合は、29.4%と4区の中で最も低くなっています。また、夫婦と子どもからなる世帯の割合は、28.3%と南区に次いで高くなっています。
- 区民のうち外国人住民が占める割合は2.4%で、約2,100人が居住しています（令和7年11月末現在、住民基本台帳）。
- 昼間人口が夜間人口を下回っており、流出超過となっていますが、その差は縮小傾向にあります。地域別にみると、北区への流出超過数が最も多く、次いで隣接する他市（備前市、瀬戸内市）が多くなっています。

<地域資源>

<p>歴史・伝統・文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・室町時代から500年以上の歴史を誇る西大寺会陽（はだか祭り）は、平成28年3月に国の重要無形民俗文化財に指定されました。 ・西大寺観音院や国指定史跡の浦間茶臼山古墳、大廻小廻山城跡、万富東大寺瓦窯跡等の歴史・文化遺産が数多く残されています。また、吉備最古の大型前方後円墳である浦間茶臼山古墳が『桃太郎伝説』の生まれたまち「おかやま」の、西大寺観音院や吉井川沿岸常夜燈群などが「北前船寄港地・船主集落」の日本遺産構成文化財に追加認定されています。 ・城下町岡山の礎を築いた宇喜多直家・秀家親子ゆかりの乙子城跡、亀山城（沼城）跡等の史跡や、津田永忠による幸島新田、沖新田開発という歴史的な業績が残されています。また、倉安川の取水口にある倉安川吉井水門は、令和元年に、「倉安川・百間川かんがい排水施設群」として、世界かんがい施設遺産に登録されました。 ・吉井川の港町として栄えてきた五福通り周辺は、伝統的な建造物群による景観が評価され、映画やドラマのロケ地となっています。
<p>自然・景観</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・犬島には、かつての銅製錬所の遺構を保存・再生した犬島精錬所美術館があり、瀬戸内国際芸術祭を契機に観光地として脚光を浴びています。 ・豊地域のナゴヤダルマガエル、瀬戸地域のアユモドキや宗堂桜、大宮地域のホタルなど、希少な動植物が生息し、各地域で保全活動が行われています。 ・朝日地域からは、瀬戸内の多島美を楽しむことができます。 ・市街地に隣接し、児島湾を望む芥子山公園は、市民に憩いの空間を提供する貴重な緑地となっています。
<p>特産品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物：上道・古都地域のニューピオーネ、雄神地域のあたご梨、上南地域のイチゴ、瀬戸地域の太秋柿・白桃等 ・海産物：朝日・九幡地域のノリ

<p>公共施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・区域の中心部には、東区役所をはじめ市の関係機関があり、これらに隣接して、西大寺緑花公園、体験学習施設である百花プラザがあります。 ・上道地域には、農業公園として整備された三徳園があります。 ・スポーツ施設として向州公園、六番川水の公園、瀬戸町総合運動公園等があります。また、政田サッカー場はファジアーノ岡山の練習拠点にもなっています。 ・犬島には、自然の家、キャンプ場等が整備されています。
<p>主な市の出先機関</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東区役所、瀬戸支所、上道地域センター、市民サービスセンター（古都、朝日） ・東区福祉事務所、東区保健センター ・公民館（西大寺、上南、上道、旭東、山南、瀬戸、万富）



西大寺観音院



浦間茶臼山古墳



宗堂桜



芥子山



犬島



政田サッカー場

区の概況図（東区）



凡例	● 歴史・伝統・文化等
	● 自然・景観等
	● 公共施設等
	● 市の出先機関（市庁舎等）
	● 市の出先機関（公民館）
	● その他



2 現状と課題

<特色ある地域づくり>

- ・西大寺地域の中心部における「西大寺ファンタジー」や「西大寺朝市」、瀬戸地域における「三谷公園もみじフェスタ」など、地域が主体となったイベントが開催されています。



西大寺ファンタジー

- ・スポーツ・文化活動が活発で、「東区スポーツ大会」や「郷土芸能フェスティバル」等に加え、区民主導での「おかやま西大寺マラソン」が開催されています。また、政田サッカー場では、ファジアーノ岡山との連携により、こども向けサッカー教室が開催されています。
- ・伝統的な建造物群が残る五福通りでは、まちなみの保存と活用が求められており、地域主体の「西大寺五福通りレトロ・マルシェ」が開催されています。

- ・「西大寺会陽」には、外国人を含む多くの観光客が訪れ、海外マスメディアにも多く取り上げられています。また、犬島は、瀬戸内国際芸術祭の開催により文化・芸術の島として注目されています。



西大寺会陽

- ・地域の歴史・文化の由来等を紹介する看板（岡山歴史のまちしるべ）の設置や、地元高校生や大学生との協働による地域の活性化や魅力の再発見を図る事業を実施しています。新たな人を呼び込むためにも、特色ある行事やイベント等を継承し、活動を担っていく人材の育成を進めるとともに、様々な地域資源を活用し、その魅力を発信していくことが求められています。
- ・東区役所、西大寺緑花公園や複合商業施設が整備された「元気な新拠点」は、地域の交流の場としての一層の活用が期待されています。

- ・地域固有の魅力ある資源をいかす取組を、区民をはじめNPOや企業等の多様な主体と協働して進めることが求められています。
- ・身近で魅力のあるまちづくりや地域課題の解決のため地域資源や特色をいかしたまちづくりを進めていく必要があります。

<人口・コミュニティ>

- ・国勢調査でみると、平成22年をピークに既に人口減少期に突入しており、人口減少率が高い地域も存在します。
- ・単身高齢世帯の割合は低いものの、山間部や田園地帯、モータリゼーションの進展に伴い開発された大規模団地等で、高齢化率が特に高い地域があります。
- ・町内会加入率は、4区の中で最も高いものの、近年低下傾向にあります。
- ・持続可能な地域づくりを進めるため、高齢者をはじめ多様な年代の区民が集い交流できる環境の整備や、若者をはじめとする新たな担い手の育成等により、地域コミュニティの活性化を図る必要があります。

<産業・農業>

- ・産業別の付加価値額では、第2次産業の割合が4区の中で最も高くなっています。また、全産業に占める製造業の割合も4区の中で最も高くなっています。
- ・瀬戸インターチェンジや産業拠点の周辺など、産業利用の適地への企業の立地を進める必要があります。
- ・南部の広大な干拓地では、米麦の生産が盛んであり、特に小麦（ふくほのかなど）の作付面積は県下で約6割を占めています。その他区内各地域では、ブドウ、白桃、梨、イチゴなどの果樹栽培で高付加価値型農業が行われている。

ますが、農業後継者不足や耕作放棄地の増加、鳥獣被害増加等の課題があり、持続可能な農業の振興を図る必要があります。

<交通>

・広域的な交通ネットワーク強化や高速道路へのアクセス強化等のため、地域高規格道路である主要地方道佐伯長船線（美作岡山道路（瀬戸ジャンクション～熊山インターチェンジ））の整備を進めています。

・外出する際に自家用車を利用する区民の割合が高く、都心部へのアクセス集中がみられることから、主要地方道岡山赤穂線（外環状線）や市道西大寺上中川町1号線などの幹線道路の整備、上道駅へのエレベーター設置や駅前広場整備による鉄道の利用環境改善などにより、交通利便性の向上に努めてきました。



市道西大寺上中川町1号線整備状況

・引き続き、地域の活力や日々の暮らしを支えるため、幹線道路等の整備やボトルネック交差点の改良、鉄道の利用促進などによる渋滞対策、バス路線の再編などによる公共交通の利便性の向上を図る必要があります。

・千種地区、角山地区、城東台・草ケ部地区、朝日地区及び幸島地区では地域住民及び交通事業者との連携による生活交通が導入されています。

・今後、高齢化が一層進むことが見込まれることから、公共交通不便地域において買い物や通院等の日常生活に必要な移動手段を確保していく必要があります。

<健康づくり>

・これまで、健康市民おかやま21東区地域推進会議では、区民主体の健康イベントや、ええとこ発見図を活用したウォーキング大会の開催などにより、歯と口腔、身体活動・運動について重点的に取り組んできました。今後は、栄養・食生活を通じた健康づくりを進めるなど活動の幅を広げるとともに、区全域だけでなく、中学校区又は小学校区単位での推進組織をいかし、地域の特性にあわせた健康づくり活動を進めていく必要があります。

<防災・防犯>

・集中豪雨や台風の際に、砂川流域では浸水被害、東南部の瀬戸内海沿岸部では高潮被害が発生しており、平成30年7月豪雨時には砂川の一部決壊により甚大な浸水被害が発生しました。また、南部の干拓地を中心に、南海トラフ巨大地震等での液状化や津波による浸水被害等が起こる可能性が指摘されています。そのため、国、県と連携しながら災害に強い地域づくりを進める必要があります。

・各地域では、防災訓練や防犯灯・防犯カメラの設置等、地域防災・防犯の担い手である町内会、安全・安心ネットワーク、自主防災組織等の地域団体による防災・防犯活動が活発に行われています。



東区総合防災訓練

・地域団体の自主的な活動を維持・強化するための支援を行うとともに、非常時に備え、平素からの普及啓発活動等に取り組む必要があります。

・用水路の危険箇所については、計画的に転落防止柵の設置など安全対策を実施してきましたが、依然として転落事故は発生していることから引き続き取り組んでいく必要があります。

3 区づくりの将来目標

歴史が息づき、愛着と誇りの持てる いつまでも住みたいまち 東区

まちに息づく特色ある歴史・伝統・文化と豊かな自然環境等の地域資源の魅力をいかしながら、地域で生まれ育った若者をはじめ、誰もが地域に愛着と誇りを持ち、いつまでも住み続けたい、帰ってきたいと思えるまちづくりを進め、人口減少社会が既に到来している中であっても、持続可能で活力ある東区の実現をめざします。

4 区づくりの重視すべき視点

視点 1

特色ある歴史・伝統・文化をいかし、地域の魅力を高める

- ・東区固有の歴史・伝統・文化をいかしたまちづくりにより、区民の地域への愛着と誇りを醸成します。
- ・地域との協働により各地域で特色ある行事・イベントを開催するとともに、様々な地域資源の魅力を積極的に発信することにより、区内外の交流や多世代のふれあいを活発化させ、賑わいのある、人を呼び込むまちづくりを進めます。

視点 2

産業・農業を振興し、地域経済を活性化する

- ・企業立地の推進等を通じて産業を振興し、雇用の場を創出するとともに、魅力ある農業を振興することにより、地域経済を活性化させ、持続可能なまちづくりを進めます。

視点 3

自然と共生し、より快適で安全・安心な暮らしを実現する

- ・交通利便性の向上等により生活の質を高めるとともに、健康づくりを充実させることにより、あらゆる世代が豊かな自然と共生しながら快適で健やかに暮らせるまちづくりを進めます。
- ・地域の防災・防犯力を高め、みんなで支え合い、こどもから高齢者まで誰もが安心して暮らすことのできる、安全・安心なまちづくりを進めます。

5 施策展開の方向性

方向性1 地域資源をいかした魅力と賑わいづくり

- ・地域との協働により、各地域の伝統行事・イベント等の一層の魅力向上に努め、多くの人々の来訪につなげます。また、様々な行事を継承するため、活動を担う人材の育成を進めます。
- ・「岡山歴史のまちしるべ」等の活用により、区民や観光客がまち歩きを楽しみながら歴史・伝統・文化への理解を深められる環境づくりを進めます。
- ・五福通り周辺の地域住民による主体的なまちなみの保存や活用への取組を支援します。
- ・各地域固有の歴史・伝統・文化等の観光資源について、地域住民、周辺市町、関係団体との連携を図りながら効果的な活用を進めるとともに、国内外にその魅力を積極的に発信し、観光客の増加、周遊促進を図ります。さらに、国指定史跡である万富東大寺瓦窯跡の史跡整備、大廻小廻山城跡の公有化も進めます。
- ・岡山市と瀬戸内市に共通する観光資源などをいかし、観光連携事業の企画、実施や観光客誘致のためのPRを行うことにより、両市における観光客の周遊促進を図ります。
- ・地域の交流の場である「元気な新拠点」の活用を促進し、賑わいの創出につなげます。
- ・ファジアーノ岡山と連携した地域スポーツの振興を促進します。
- ・地域住民をはじめ、NPOや企業等による地域課題解決に向けた取組や地域資源を活用した活力創出の取組に対する支援を進めます。
- ・地域団体・高校・大学等と連携した区まちづくり独自企画事業を実施することにより、郷土愛の醸成や魅力再発見、地域の活性化等を図ります。
- ・主に中山間・周辺地域において、地域住民等との協力による地域活性化の促進を図ります。



区まちづくり独自企画事業
(あそびひろば in 東区)

- ・西大寺駅周辺地区において街路樹や都市公園樹木のボリュームアップなどを進め、季節の移り変わりが感じられるような魅力ある都市空間づくりを進めます。

方向性2 多世代が交流・活動できる地域づくり

- ・区づくり推進事業等を活用しながら、地域のアイデアをいかした取組を促進し、地域住民が主体的に進める地域づくりを支援します。
- ・町内会をはじめとした地域団体と小・中・高等学校、大学等の学校や事業者等との連携を進め、若者や働く世代を含めた多世代の地域活動への参加を促進します。
- ・地域活動を担う人材の育成につながる講座等の開催などを通じて、地域の新たな担い手の確保・育成を図ります。
- ・地域の様々な行事等を通じた多世代の交流を促進するとともに、こども、高齢者等を地域住民全体で見守り、支え合う地域づくりを促進します。

方向性3 企業立地の推進と持続可能な農業の振興

① 優位性をいかした企業誘致

- ・瀬戸インターチェンジや産業拠点の周辺などの産業利用の適地において、地域未来投資促進法の活用や市街化調整区域の開発許可制度の緩和により、工場や物流施設等の立地を推進します。



瀬戸インターチェンジ周辺

② 持続可能な農業の振興

- ・新規就農者等の担い手の確保、経営規模の拡大、大規模農家の法人化、付加価値の高い農産物の生産と販路拡大等、経営力の向上に向けた施策を推進するとともに、これを下支えするため、農地の大区画化や排水改良等を通じて農業生産性の向上を図ります。また、鳥獣被害対策として、農地への防護柵や捕獲檻の設置、DXを活用した捕獲駆除等への支援を継続していきます。

方向性4 交通利便性の向上

- ・主要地方道佐伯長船線（美作岡山道路（瀬戸ジャンクション～熊山インターチェンジ））の整備により、近隣の工業団地や住宅団地等から高速道路へのアクセスを強化するとともに、緊急時、災害時における交通の確保等を図ります。
- ・都心部へのアクセス性の向上や区内の各地域間の円滑な移動を確保するため、主要地方道岡山赤穂線（外環状線）、主要地方道岡山牛窓線、主要地方道西大寺山陽線、市道西大寺上中川町1号線等の幹線道路の整備を進めます。
- ・ボトルネックとなっている交差点などを改良することにより、渋滞の緩和・解消を図ります。
- ・公共交通の利便性向上を図るため、牛窓方面において、身近な生活関連施設へのバス路線延伸などバス路線の再編に取り組むとともに、乗り継ぎ環境の整備を進めます。また、鉄道の利用促進などに併せ、交通結節点機能の強化を図るため、上道駅のバリアフリー化と駅前広場の整備を進めます。
- ・生活交通の運行地域において、利用促進と運行サービスの改善に取り組みます。また、その他の公共交通不便地域では、地域住民及び交通事業者との連携により、日常生活に必要な移動手段を確保するための生活交通の導入を進めます。



主要地方道岡山赤穂線完成イメージ

方向性5 健やかに暮らせる地域づくり

- ・地域の様々な団体が協力し、地域の魅力を再確認して作り上げたウォーキングマップ「ええとこ発見図」等を効果的にPRし、その活用を促進することにより、区民が地域の歴史・文化等への理解を深めながら、気軽に歩くことのできる機会の増加を図ります。

- ・地域の特性に応じた健康づくりを充実させるため、健康市民おかやま21東区地域推進会議の活動を進めていきます。

方向性6 安全・安心な地域づくり

① 津波・浸水対策

- ・津波・高潮被害や大雨による浸水等の被害を軽減するため、国、県による吉井川、砂川の早期改修、海岸堤防の津波・高潮対策等のハード整備を促進します。
- ・町内会への防災備蓄土及び土のう袋の配布や、用水路の事前水位調整、流末の遊水池の有効活用、河川からの取水調整、河川の水位上昇に伴う各種の操作等のソフト対策により、浸水被害の軽減・防止を図ります。

② 地域の防災・防犯力の強化

- ・災害による地域の被害を防止・軽減するため、地域防災リーダーの育成や防災資機材の購入助成、防災訓練への支援等を通じて、自主防災組織の活性化と新規結成を促します。また、避難行動要支援者の個別避難計画の作成等を支援します。
- ・災害に備え備蓄物資の分散化を進めるとともに、集中備蓄倉庫に備蓄物資を配備し、不足する備蓄物資を供給することができる体制を整えます。
- ・土砂災害や高潮被害等に迅速・的確に対応し、被害を最小限にとどめるため、ハザードマップの普及や出前講座の実施等により、日頃からの危機意識を醸成するとともに、避難方法等の一層の周知を図ります。
- ・安全・安心ネットワーク等によるこどもの登下校時の見守り活動や交通安全教室の開催等の自主的な活動を支援するとともに、防犯に関する出前講座の実施等により、防犯ボランティア団体の活動を活性化します。また、地域における防犯灯や防犯カメラの設置等を支援するとともに、警察や防犯団体等との連携を強化しながら交通事故や犯罪を抑制します。



集中備蓄倉庫

- ・用水路等の危険箇所に対する安全対策を図るため、引き続き転落防止柵等を設置するハード対策を行うとともに、啓発ポスターの掲示やチラシの配布等のソフト対策も実施していきます。

南区

1 概況

<地勢・都市環境>

- ・南区は市の南部に位置し、平成17年の合併による旧灘崎町地域を含み、区域の面積は約127㎏で岡山市の約16%を占めています。
- ・旭川右岸の干拓地と児島半島の丘陵地が、児島湾と児島湖を囲むように位置しており、東には旭川が児島湾に注ぎ、中央に笹ヶ瀬川、南部に倉敷川が日本最大の人造湖（ダム湖を除く）である児島湖に注いでいます。
- ・区域の過半が江戸時代以降の干拓地であり、南部には岡山市の農業の中心をなす広大な穀倉地帯が広がっています。経営耕地面積は4区中最大で、その中でも田の割合が4区の中で最も高くなっています。
- ・区域の北部は、都心部から連続する市街地が広がっており、岡南地域には臨海工業地帯が広がるとともに、大規模商業施設が立地しています。
- ・道路は、東西に国道2号、南北に国道30号が整備されており、令和4年4月には市道藤田浦安南町線（外環状線）が開通しました。

<人口・世帯>

- ・令和2年国勢調査では、人口は167,828人（市人口の23.2%）と4区の中で2番目に多くなっています。
- ・直近5年間の人口動態をみると、社会減の拡大により近年マイナスで推移し続けています。岡山県毎月流動人口調査での令和7年12月1日現在の人口は、162,037人となっています。
- ・年少人口比率は、13.7%と平成27年から0.8ポイント減少し、高齢化率は、27.1%と平成27年から2.3ポイント増加しています。
- ・夫婦と子どもからなる世帯の割合が、28.9%と4区の中で最も高く、また、1世帯当たりの人員は、2.38人と4区の中で2番目に多くなっています。

- ・区民のうち外国人住民が占める割合は2.0%で、約3,400人が居住しています（令和7年11月末現在、住民基本台帳）。
- ・周辺地域への通勤・通学者等の流出により、昼間人口が夜間人口を下回っています。地域別にみると、北区への流出が最も多く、次いで隣接する他市（倉敷市、玉野市）が多くなっています。



南区役所周辺の風景

<地域資源>

<p>歴史・伝統・文化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・興除、藤田、灘崎地域には、県指定文化財である児島湾開墾第一区の樋門群など新田開発の歴史を今に伝える樋門、堤防等の農業・土木遺産が多くあります。 ・灘崎地域には、国指定史跡にも指定された西日本有数の縄文貝塚である彦崎貝塚や市指定史跡の常山城跡があります。 ・妹尾地域には、18世紀初頭に建立された本殿が残る栗村神社など多数の寺社が存在するほか、干拓地の飲み水確保の困難さを伝えるつちえの井戸等が残されています。 ・浦安地域には、岡山藩主の池田忠継廟等の歴史・文化遺産があります。 	<p>公共施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・浦安総合公園、灘崎町総合公園、山田グリーンパークなど、大規模な公園やスポーツ施設があります。 ・臨港グリーンアベニューや浦安緑道、妹尾緑道、十一番川緑地、福田緑道など、暮らしに潤いを与える緑道公園があります。 ・岡南地域には、野菜、果物、鮮魚等を供給する中央卸売市場、花を供給する地方卸売市場があります。 ・灘崎地域では、いちご狩りやぶどう狩りの体験施設や、地域で栽培された新鮮な農産物などを購入できるロードサイドマーケットがあるサウスヴィレッジが人気の施設となっています。 ・浦安地域には、小型機専用の飛行場である岡南飛行場があり、岡山市消防航空隊（消防ヘリコプター）の基地にもなっています。 ・岡山市消防教育訓練センター水難救助訓練施設（風水害体験エリア）には、住民が模擬体験を通して災害から身を守ることが学べる、全国でも珍しい風水害に特化した体験型の学習施設があります。
<p>自然・景観</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で最初の国立公園として指定された瀬戸内海国立公園内にある金甲山、貝殻山からは瀬戸内の多島美を一望できるほか、児島湖及び隣接する阿部池は多種のガンカモ類が越冬するなど、西日本でも有数の水鳥の観察地となっています。 ・迫川地域には、県南部最大級の桜である県天然記念物の大山桜があります。 ・児島湖周辺では市民の手により河津桜が植樹されています。 ・箕島地域や迫川地域では、これまでの地域住民によるホタルの保全活動により、毎年ホタルの生息が確認されています。 	<p>主な市の出先機関</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南区役所、灘崎支所、地域センター（妹尾、福田、興除、藤田、児島、福浜） ・福祉事務所（南区西、南区南）、保健センター（南区西、南区南） ・公民館（岡南、妹尾、福田、興除、藤田、南、福浜、芳田、光南台、灘崎）
<p>特産品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物：干拓地の米麦、藤田地域のレタス、たまねぎ、灘崎地域の千両なす等 ・海産物：小串地域のノリ 		



貝殻山



桜の馬場樋門



臨港グリーンアベニュー

区の概況図（南区）



凡例	
●	歴史・伝統・文化等
●	自然・景観等
●	公共施設等
●	市の出先機関（市庁舎等）
●	市の出先機関（公民館）
●	その他



2 現状と課題

<防災・防犯>

- ・国道2号以南の海拔ゼロメートル地帯においては、近年の線状降水帯や大型化する台風による集中豪雨を原因とする内水はん濫被害への対策を進める必要があります。また、児島半島地域では高潮被害が懸念されています。
- ・灘崎地域、児島半島地域の山間部では、大雨・長雨や地震等の地盤の緩みによる土砂災害の発生が懸念されています。特に、令和7年3月に発生した大規模な林野火災による焼失区域の復旧等、関係機関に協力して進めていく必要があります。
- ・南海トラフ巨大地震においては、広範囲で津波による浸水被害が発生する可能性が指摘されています。
- ・各地域では、安全・安心ネットワーク、防犯パトロール隊等により、活発な防災・防犯活動が行われていますが、多くの団体に構成員の高齢化、担い手不足が課題となっています。災害に強く安全・安心な地域づくりに向けて、地域の防災・防犯活動の活性化を図る取組を進めるとともに、自主防災組織の結成促進や、無関心層に対する啓発を一層行っていく必要があります。
- ・用水路の危険箇所については、計画的に転落防止柵の設置など安全対策を実施してきましたが、依然として転落事故は発生していることから、引き続き取り組んでいく必要があります。

<農林水産業・産業>

- ・南部に広がる広大な干拓地では、米麦を中心とする農業が盛んであり、また、藤田地域のレタス、たまねぎ、灘崎地域の千両なすなど、高収益作物の栽培に取り組んでいます。引き続き、干拓地農地の規模的な優位性等



千両なす

をいかし、魅力ある農業の振興を推進する必要があります。

- ・農家戸数は減少傾向にあり、新たな担い手の育成や農地の集積・集約化を促進する必要があります。
- ・岡南地域には臨海工業地帯が広がるとともに、大規模商業施設が立地しており、地域の活力を一層高めるため、災害時の協力を含め企業とともに地域の活性化に向けた取組を進める必要があります。
- ・物流軸沿線や産業拠点の周辺など、産業利用の適地への企業の立地を進める必要があります。

<コミュニティ>

- ・町内会加入率は比較的高く、地域住民による清掃活動や不法投棄監視など、環境保全活動に加え、高齢者の増加に伴う住民同士の支え合い活動が地域ぐるみで行われるとともに、地域の事業者との連携により環境美化活動や植樹活動、防災訓練をはじめとする様々な地域活動が行われています。
- ・高齢化率が30%を超え、担い手が不足するなど、課題を抱えた地域もあることから、持続可能な地域づくりを進めるため、町内会等の地域コミュニティ活動の活性化を支援する必要があります。

<特色ある地域づくり>

- ・県天然記念物である奥迫川の大山桜や空き家跡地を活用した地域づくりなど、地域資源をいかしたイベントにより、世代間の交流を深め、地域の魅力を発信する取組が行われています。
- ・妹尾地域の音楽によるまちづくりや興除



地域で開催されるイベント

地域特産のお米、藤田地域の野菜にまつわるイベントなど、地域の新たな魅力づくりや人のつながりを深める取組が必要とされています。

- ・地域防災リーダーの育成など、地域課題を解決するための取組が行われています。
- ・地域の歴史・文化の由来等を紹介する看板（岡山歴史のまちしるべ）を設置し、地域の歴史・文化を学び、楽しむ機会を増やしてきました。今後も歴史・文化遺産等の掘り起こし、情報発信を行うとともに、各地域での特色ある取組を地域間で情報共有することにより、それぞれの活動により一層活性化することが求められています。



地域の防災士による取組

<交通>

- ・令和4年4月の市道藤田浦安南町線（外環状線）の開通等を通じて、朝夕のピーク時に発生している交通混雑の解消を図ってきました。引き続き、地域の活力や日々の暮らしを支える幹線道路の整備を進めていく必要があります。
- ・一部の地域では、バス路線が減便となるなど、公共交通の維持・改善が課題となる中、令和7年度に公設民営方式を導入



支線バスFLA+

した支線バスとして「妹尾・北長瀬線」、「妹尾・岡南線」の運行が開始されました。運行を開始した支線バスの利用率アップをめざすとともに、更なる利便性向上を図るなど、引き続き公共交通の維持・改善に取り組む必要があります。

- ・地域住民や交通事業者と連携し、生活交通を運行している迫川地区では、停留所の追加や運行日の変更を行うなどの工夫により、利用促進を図ってきました。他にも日常生活における移動が不便な地域が存在しており、買い物や通院等、地域のニーズに合った移動手段を確保していく必要があります。

<健康づくり>

- ・健康増進、こども・子育て支援など身近な交流の場である大規模公園等の利用・存在効果をさらにいかにする必要があります。
- ・区内には、高齢化率が高い地域も存在しており、公民館等と連携し、地域の特性に応じた健康づくりをさらに進める必要があります。
- ・中学校区単位や保健センター単位で健康市民おかやま21の推進組織をいかし、多様な関係者との連携の幅を広げ、健康づくりを進めています。



サウスヴィレッジ

3 区づくりの将来目標

実りの大地に、世代を超えて未来を育む つながるまち 南区

世界有数の人造湖である児島湖、瀬戸内海国立公園等の豊かな自然環境や、臨海工業地帯が広がり大規模商業施設が立地する岡南地域、都心部から連続する市街地など、多くの人や企業を惹きつける求心力あふれるまちづくりを進めます。

また、実り豊かな農産物を生み出す広大な干拓地での農業を次代に引き継ぎながら、地域資源をいかすとともに、地域のつながりや世代を超えた交流を大切に、安全・安心に暮らせるまちづくりを進めることにより、子育て世代をはじめ、すべての世代が住み続けたいと思える南区の実現をめざします。

4 区づくりの重視すべき視点

視点 1

地域が一体となって、防災力を高める

- ・河川、沿岸部等の危険箇所への対策や避難所の環境整備等を充実させるとともに、自助・共助の精神で区民が互いに協力し合い、自分と大切な人の命を守るという意識を醸成することにより、地域防災力をさらに高めます。

- ・歴史・伝統・文化などの特色をいかしたイベントや祭りに、若者や子育て世代などの幅広い世代が参加することで賑わいが生まれ、住む魅力に満ちた高揚感あふれる地域づくりを進めます。

視点 2

地域資源を輝かせ、わくわく感を創り出す

- ・岡山の食を支える農業を振興し、地域ならではの特産品を広く発信することにより、豊かで活力ある未来につながるまちづくりを進めます。

視点 3

地域をつなげ、快適に暮らせるまちを実現する

- ・地域の抱える課題やニーズを踏まえながら、交通利便性の向上や生活交通の確保等を進め、生活環境の維持・向上を図ります。
- ・未来に向けて進化し続けるまちをめざし、世代や地域を超えたつながりを深め、区内外の交流を活性化することにより、こどもから高齢者まで、誰もがいきいきと暮らせる、住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

5 施策展開の方向性

方向性1 地域で取り組む防災・防犯対策の充実

① 津波・浸水対策

・津波や台風、局地的な集中豪雨等による被害を軽減するため、国、県による海岸堤防、笹ヶ瀬川等の護岸の整備や耐震化を促進するとともに、令和7年5月に完成した浦安1号雨水幹線（1工区）に引き続き着手した2工区の雨水幹線整備等のハード整備に加え、用水路の事前水位調整等のソフト対策により、防災機能を強化します。

・高潮や浸水の危険が事前に予想される場合には、児島湖の管理者や上流地域の水利権者とも協力しながら水位調整を行うなど、広域での連携を通じて、浸水被害の軽減を図ります。また、町内会への防災備蓄土、土のう袋の配布等を通じた自助、共助による浸水被害の軽減・防止を図ります。



浦安1号雨水幹線計画図

② 地域の防災・防犯力の強化

・大規模な林野火災の焼失区域が従来の姿を取り戻すには長い年月を要しますが、土砂災害が起りやすくなっていることなどにも注意しながら、県など関係機関に協力して復旧等を着実に進めます。

・津波災害や浸水被害等に迅速・的確に対応し、被害を最小限にとどめるため、ハザードマップの普及や出前講座の実施等により、日頃からの危機意識を醸成するとともに、避難方法等の一層の周知を図ります。また、地域との連携による避難所運営機能の充実・強化を図ります。

・平成30年7月豪雨災害を教訓として、地域防災リーダーの育成、防災資機材の購入助成や防災訓練への支援等、自主防災組織に対する支援強化を図り、組織の活性化と新規結成を促進します。また、避難行動要支援者の個別避難計画の作成等を支援します。

・避難所においては、体調不良者への配慮や暑さ・寒さ対策など、避難所の環境改善に引き続き取り組んでいきます。

・子どもや若者が遊びを通じて楽しく学べる防災プログラムの提供や、令和7年5月にオープンした岡山市消防教育訓練センター水難救助訓練施設（風水害体験エリア）を活用し、防災への意識啓発を図ります。



水難救助訓練施設（風水害体験エリア）での流水歩行体験の様子

・安全・安心ネットワーク等による防犯や交通安全のための自主的な地域の見回り活動を支援するとともに、防犯ボランティア団体への情報提供や研修の実施等により、活動の活性化及び地域の防犯意識の向上を図ります。

・犯罪や交通事故の減少等に向けた警察や防犯団体等との連携を強化するとともに、地域における防犯灯や防犯カメラの設置等を推進し、安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます。

・用水路等の危険箇所に対する安全対策を図るため、引き続き転落防止柵等を設置するハード対策を行うとともに、啓発ポスターの掲示やチラシの配布等のソフト対策も実施していきます。

方向性2 活力のある農業・産業の振興

・持続可能な農業をめざして各種施策を国や県、農業者団体等と連携して推進します。また、干拓農地としての規模的な優位性や地理的利便性等をいかしながら、新規就農者等の担い手の確保、経営規模の拡大、低コストで付加価値の高い農産物の生産とその販路拡大等により、経営力の向上を図ります。

・鳥獣被害対策として、農地の防護柵や捕獲檻の設置、捕獲駆除等への支援を継続していきます。

・主要な農業用排水施設の計画的で効率的な維持管理を行うとともに、農地の用排水機能の強化等による生産性の向上を図ります。

- ・サウスヴィレッジでのイチゴやブドウなどの収穫体験や地元農家で採れた農産物の直売等を通じて、農業や食への関心を深めてもらい、都市と農村の交流促進を図ります。
- ・物流軸沿線や産業拠点の周辺などの産業利用の適地において、地域未来投資促進法の活用や市街化調整区域の開発許可制度の緩和により、工場や物流施設等の立地を推進します。

方向性3 多様な担い手の参加・協働による地域活動の活性化

- ・町内会や安全・安心ネットワーク等の地域コミュニティは、災害が起こった際の重要な役割を持つ共助を担う単位でもあることから、その活動の活性化を支援します。
- ・高齢化による担い手不足を解消し、地域活動を活性化させるために、地域における世代交流と地域活動への参加意識の向上を図ります。
- ・区づくり推進事業等を通じて、地域防災力の向上、地域文化の継承等の地域固有の課題を自ら解決しようとする地域活動を支援します。また、地域活動への参加を促進し、地域コミュニティの活性化を図ります。
- ・地縁団体のみならず、事業者、学校、NPO、行政等の多様な担い手の相互理解やつながりを深めていくことにより、地域全体のまちづくり活動を活性化し、地域の一体感の更なる醸成を図ります。

方向性4 地域の魅力の発掘・発信

- ・各地域にある美しい自然や固有の歴史・伝統・文化等を再認識し、地域への関心や愛着を高めるため、国指定史跡である彦崎貝塚に憩える芝生広場を整備し、自然環境豊かな瀬戸内海国立公園、地域の歴史・文化の由来等を記した看板等を活用します。
- ・年間を通じて開催されている地域の特色あるイベント等を含め、南区の魅力を広報紙やホームページ、SNS等により区内外に発信し、他地域との交流

を促進します。

方向性5 交通の利便性の向上

- ・都心部へのアクセス性の向上や区内の各地域間の円滑な移動を確保するため、引き続き主要地方道岡山児島線等の幹線道路の整備を進めます。
- ・公共交通の利便性向上を図るため、妹尾方面、芳泉・岡南方面において、駅や身近な生活関連施設へのバス路線延伸などバス路線の再編に取り組むとともに、乗り継ぎ環境の整備を進めます。
- ・迫川地域で運行中のデマンド型乗合タクシーの更なる利用促進や運行改善を地域住民及び運行事業者と連携して取り組みます。また、他の公共交通不便地域においても、地域住民及び交通事業者との連携により、日常生活に必要な移動手段を確保するための生活交通の導入を進めます。

方向性6 健やかに暮らせる地域づくり

- ・大型遊具のリニューアルが予定されている浦安総合公園、家族連れで賑わう灘崎町総合公園、山田グリーンパーク等の大規模公園やスポーツ施設等の地域資源をさらに充実させ子育てしやすいまちづくりを促進するとともに、子どもから高齢者までの健康づくりを進めます。
- ・地域の特性に応じた健康づくりをさらに進めるため、公民館、学校園、企業、各種団体の協力を得ながら、中学校区単位や保健センター単位で健康市民おかやま21の活動の充実を図ります。



浦安総合公園